

がん教育総合支援事業

事業成果報告書 令和元年度



文部科学省

初等中等教育局

健康教育・食育課

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

○ 全員で 10 人

大学教授 1 人、医療関係者 3 人（がん専門医・小児科医・がん専門看護師）、保健福祉部局 1 人、がん経験者 1 人、校長 2 人（中学校・高等学校）、養護教諭 1 人、行政関係者 1 人（教育委員会）

○ 連携先

北海道保健福祉部局、北海道がん診療連携協議会、北海道がん患者連絡会、北海道医師会

2. 開催時期、検討内容

期 日	出席者	内 容
令和元年 7 月 22 日	9 人	〈第 1 回連絡協議会〉 ○ 説明 ・学校におけるがん教育の推進 ・北海道におけるがんに関する現状と対策 ・令和元年度（2019 年度）がん教育総合支援事業の計画 ○ 協議 「北海道におけるがん教育の推進に向けた改善充実の在り方について」 ・令和元年度（2019 年度）がん教育総合支援事業の計画 ・その他 地域の特性に応じた取組の充実
令和 2 年 1 月 24 日	8 人	〈第 2 回連絡協議会〉 ○ 報告 ・平成 30 年度がん教育実施状況調査（文部科学省）結果 ・がん教育推進校における取組 ・がん教育研修会 ・外部講師リストの活用状況 ・今後の取組 ・事業全体の成果と課題 ○ 協議 「令和元年度がん教育総合支援事業の成果の検証及び今後の取組に向けて」 ・学校（教員）のがん教育に関する理解の促進 ・外部講師リストの活用の促進

② 教育委員会としての取組

○ がん教育推進校における取組

- ・がん教育推進校（中学校 3 校・高等学校 3 校）を指定、各校において公開授業及び成果の普及
- ・取組内容については、「(2) 推進校における取組」に記載

○ がん教育研修会の開催（令和元年 11 月 18 日）

・目的

学校におけるがん教育の充実を図るため、教職員は、がん教育の意義や効果的な指導方法、がんについての正しい知識について、また、外部講師は、学校と連携を図った効果的ながん教育の在り方について理解を深める。

・参加人数：124人（教職員等研修参加人数 75人、外部講師対象研修 49人）

・内容

（教職員等対象研修）

【講義】「新学習指導要領に対応したがん教育の進め方」（学校教育局健康・体育課指導主事）

【実践発表】「学校全体で進めるがん教育の取組」（北海道鹿追高等学校 教諭 下川部 譲 氏）
（外部講師対象研修）

【講義】「外部講師に期待されること」（学校教育局健康・体育課指導主事）

【実践発表】「学校におけるがん教育の取組」

（医療法人溪仁会手稲溪仁会病院 がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師 伊藤 聖美 氏）

（北海道がん患者連絡会 がん患者・家族の支援会 e n n 古城 剛 氏）

（教職員等対象・外部講師対象 全体研修）

【シンポジウム・交流】「がん教育の充実に向けて」

（北海道岩見沢西高等学校 教諭 山崎 進 氏/北海道深川東高等学校 養護教諭 塩田 真弓 氏/

国立病院機構北海道がんセンター がん看護専門看護師 菊地 美香 氏/北海道がん患者連絡会

北海道肺がん患者と家族の会 内山 浩美 氏）

【講演】「今、学校で始まる『がん教育』」（東京女子医科大学 がんセンター長 林 和彦 氏）

○ 事業成果の普及

・令和元年度がん教育総合支援事業がん教育推進校の実践等をまとめ、市町村教育委員会及び学校へ周知するとともに、北海道教育委員会の Web ページに掲載し、事業成果の普及を行った。

（<http://www.dokyoii.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/gannokyouiku.htm>）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○ 北海道がん診療連携協議会及び北海道がん患者連絡会と連携し、推進校への外部講師の派遣に取り組んだ。

○ 小学校におけるがん教育の推進に、道保健福祉部の事業である「がん教育出前講座」を活用し、小学校 24 校で実施した。

○ 道保健福祉部において作成した小学校高学年向けがん教育教材「生活習慣病のひとつ がんのことをもっと知ろう」（DVD）の活用について、全ての小学校等に周知を行った。

○ 北海道対がん協会が開催する「第 51 回がん予防道民大会」に開催地の高校 2 校が参加し、様々な立場の人と共にがんを考える機会となっている。

（2）推進校における取組

学校名・テーマ	教科等 (時数)	対象 学年	内 容
室蘭市立東明中学校 「保健体育科（保健分野）における実践研究『新学習指導要領への対応も含めた保健体育科の授業実践』」	校内検討会 道徳(1) 保健体育(1)	各学年 教職員 3 学年	○ 生命の尊さ「いのちを考える」 ○ 外部講師による講話 （講師：市立室蘭総合病院 院長） ※室蘭市がん教育推進事業と連携した取組
	校内検討会 保健体育(1)	3 学年	○ 「健康な生活と病気の予防」生活習慣病とその予防 （文部科学省「がん教育プログラム」活用）
	保健体育(1) 校内検討会 校内研修	3 学年	○ 「健康な生活と病気の予防」喫煙と健康 ○ がん教育研修会（北海道教育委員会）参加者による内容の還元
	広報啓発		○ 校内掲示やディスプレイを活用した生徒への広報、啓発活動



日高町立富川中学校 「コミュニティ・スクールの取組として、地域のがんに関する専門的知識を有した保健師と連携した保健体育科の授業実践」	校内検討会 保健体育(1) 校内研修	3 学年 教職員	○ 単元名「健康な生活と疾病の予防」 ○ 外部講師による講話 (講師：公益財団法人北海道対がん協会 札幌がん検診センター保健師) ○ がん教育研修会(北海道教育委員会)参加者による内容の還元
標茶町立虹別中学校 「地域の保健師や学校医など、専門家と連携したがん教育を実践し、がんについての正しい理解と健康の大切さについて主体的に考えることができるようにする」	保健体育(1) 校内研修・検討会 学級活動	3 学年 教職員 1～3学年、保護者、地域住民等	○ がんの原因や予防法への理解を深めるグループ学習 ○ がん教育研修会(北海道教育委員会)参加者による内容の還元 ○ 生徒の実態から、より効果的ながん教育の在り方の検討 ○ 外部講師による講話 (講師：市立釧路総合病院 がん専門看護師)
		【内容】 ・がんと聞いて思い浮かぶこと ・がんのしくみ、原因から予防について考える ・がん検診について 【生徒の感想より】 ・がん検診が受けられる年齢になったら、必ず年に一度かそれ以上のペースで検診を受け、早期発見できるようにする。	
	事業の還元	保護者等	○ 校内検討会の結果を踏まえた本校におけるがん教育の取組を保護者や地域住民、他校教職員等へ還元
北海道深川西高等学校 「がん教育をとおして、がんについての正しい知識を学び、自己の健康保持に対する意識と態度を育成する」	校内研修・検討会 保健体育(1) 生物(1) 家庭(1) 校内研修	教職員 1 学年 3 学年 1 学年 教職員	○ がん教育研修会(北海道教育委員会)参加者による内容の還元 ○ がん教育の効果的な指導方法の検討 ○ 外部講師による講話 (講師：独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター、緩和ケアセンター・ゼネラルマネージャー) ○ がんの成り立ちやメカニズムについての理解 ○ 食物繊維とがんの因果関係についての知識の習得 ○ 外部講師による講話 (講師：深川市立病院がんサロン「すまいるサロン」代表)
		【演題】 「がん患者・家族とのコミュニケーションを考える～がん患者支援の現場から～」 【教職員より】 がん経験者の体験を直接聞く機会を設定したことにより、がん患者にとって、医療職との信頼関係や仲間の存在が重要であることについての理解が深まった。	

北海道名寄高等学校 「がんについての正しい知識の習得及びその予防について理解させる。また、健康と命の大切さについて主体的に考える態度を育成する」	校内検討会 広報啓発 保健体育(1) 理科(1) 保健体育(1)	1 学年、教員、保護者 1 学年	○ 取組を本校ホームページに掲載 ○ 外部講師による講話 (講師：名寄市立大学保健福祉学部看護学科講師) ○ がんの発生と予防 名寄市立大学保健福祉学部看護学科学生の協力
授業前に、授業者は学生と事前打合せを実施。 グループワークが始まると、5名の学生たちは、グループの話しに耳を傾けながら生徒の質問に答えたり、助言したりするなどして、グループワークが深まるよう働きかけを行った。			
北海道豊富高等学校 「地域の保健師や学校医など、専門家と連携したがん教育を実践し、がんについての正しい理解と、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」	校内検討会 保健体育(1) 保健体育(1) 保健体育(1) 国語(1) 現代社会(1) 校内研修	1、2 学年 1、2 学年 1、2 学年 1 学年 2 学年 教職員	○ 「現代社会と健康」 「がんとはどのような病気か」「がんの発生要因」について学び、疾病としての「がん」を理解する。 ○ 外部講師による講話 (講師：豊富町役場保健推進課保健予防係保健師) ○ 外部講師による講話 (講師：幌延町国民健康保険診療所 院長(学校医)) ○ がん患者とともに生きる社会を考え、作文にまとめる ○ がんに関する新聞記事の読み取り、グループワーク及び発表 ○ 道主催がん教育研修会参加者による内容の還元
「がんと向きあえる未来のために」 私は、がんと向きあえる社会をつくるには、「がん患者の家族同士の交流の場をつくること」に取り組むべきだと考える。 なぜなら、患者が一番辛い、その家族も身体的、精神的に辛いと思うからだ。家族は、患者の身の回りの手助けをしたり、治療費を払っていく上で、かなりの不安を抱える。 【国語総合(作文)より】			

2. 事業の達成度について

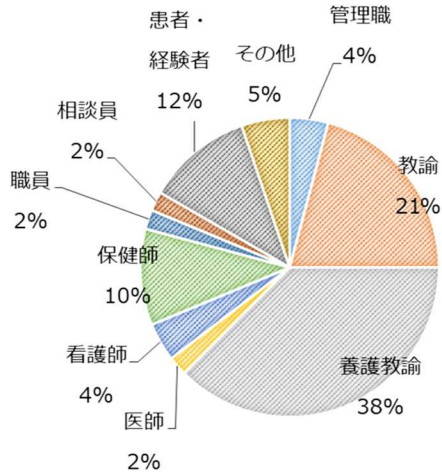
○ がん教育推進の目標

- (1) 新学習指導要領に対応した保健体育科の授業の充実
- (2) 地域等の特性に応じた取組の充実
- (3) 外部講師の拡充及びリストの充実

(1) がん教育研修会について

・受講者に対するアンケート結果から（抜粋）

【職種別受講者】



【評価等】

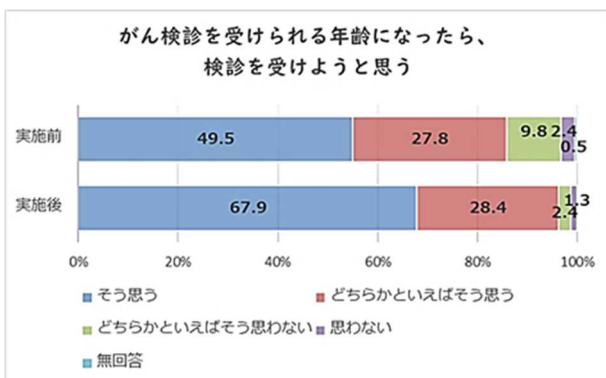
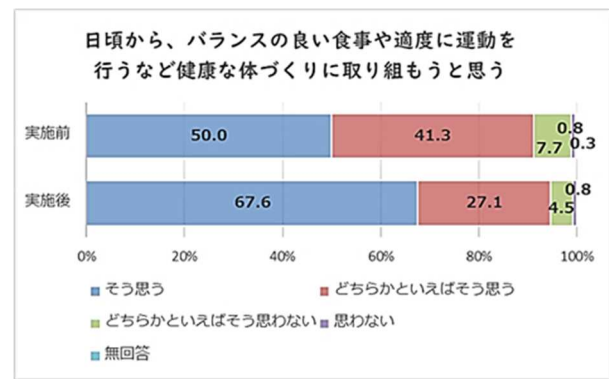
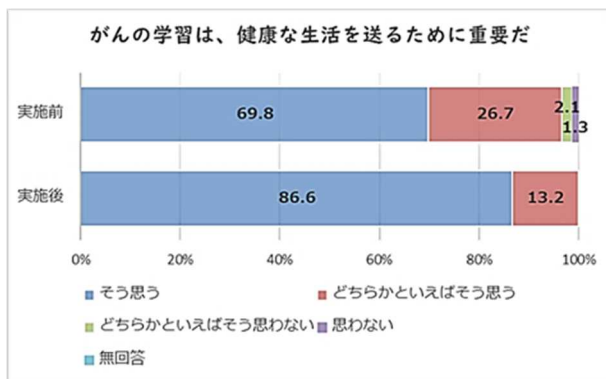
講義等	大変役立った・ おおむね役立った
【講義】 「新学習指導要領に対応したがん教育の進め方」	77.0%
【実践発表】 「学校全体で進めるがん教育の取組」	86.9%
【講義】 「外部講師に期待されること」	91.4%
【実践発表】 「学校におけるがん教育の取組」	91.4%
【シンポジウム】 「がん教育の充実に向けて」	86.5%
【講演】 「今、学校で始まる『がん教育』」	94.8%

研修後のアンケートでは、いずれの内容についても「大変役立った」「おおむね役立った」と回答した割合が75%以上であった。

受講した教職員からは、「がん教育を学校全体の取組にすることについて、考えるきっかけになった」、「教科担当教員と連携し、取組を進めたい」、外部講師からは、「『がん』についての正しい知識のほか、『がん』を通して子どもたちに何を学んでもらいたいのかを念頭に準備をしようと思った」などの感想が寄せられた。

(2) がん教育推進校における取組について

・生徒に対するアンケート結果から（抜粋）

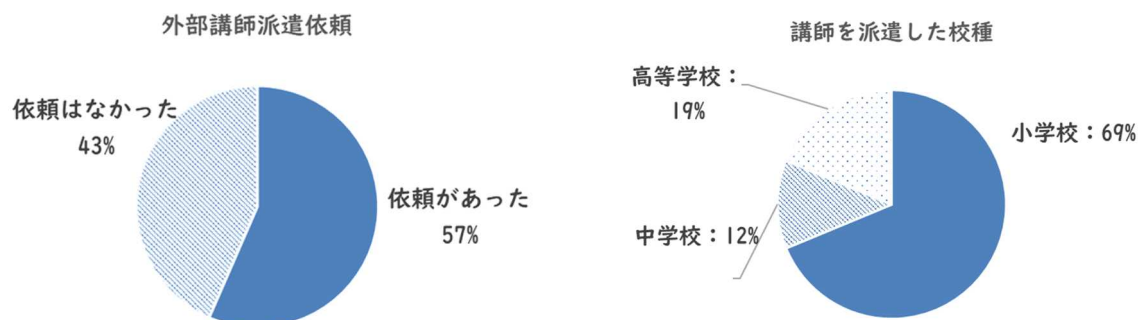


事業実施前後のアンケートでは、「『がん』の学習は健康な生活を送るために重要」「食事や運動を意識し、健康な体づくりに取り組もうと思う」「がん検診を受診しようと思う」と回答した生徒の割合が15%以上増加し、がん教育を通して多くの生徒が「がん」についての理解を深め、健康と命の大切さに気付くとともに、自己の生き方を考えるきっかけになったと考える。

- ・推進校 6 校中 5 校が、地域の医師や保健師、がん経験者に講話を外部講師として活用し、地域の実情を踏まえた講話を実施した。
- ・推進校 1 校（中学校）は、外部講師による講話を生徒及び教職員のみならず、保護者や地域住民とともに聞く機会とした。
- ・推進校 1 校（高等学校）は、地域の大学との連携により、看護学科の大学生の協力を得て、授業を実施した。

(3) 外部講師リストについて

- ・外部講師リスト掲載団体等を対象としたアンケート結果から（抜粋）



- ・外部講師リストの活用の促進に向け、掲載団体に今年度の活用状況についてアンケートを行ったほか、今後の外部講師の拡充及びリストの充実に向けて、北海道医師会と協議を行った。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 新学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施に向け、推進校の取組事例を全道の学校に普及・啓発を図る必要がある。
- 北海道の全ての地域においてがん教育を推進する必要があることから、がん教育研修会の札幌市以外の地域での開催を検討する。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 学校のニーズに対応できるよう外部講師を拡充する必要があることから、北海道医師会や北海道がん診療連携協議会等関係機関と連携を図り、外部講師の拡充及び外部講師リストの更新を行う。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

○ 全員で16人

医師（外科・内科）各1人（計2人）、大学教授（腫瘍内科）1人、がん拠点病院専門看護師4人
がん専門相談員（社会福祉士）1人、小学校・中学校・高等学校長各1人（計3人）
小学校教諭1人、中学・高等学校保健体育科教諭各1人（計2人）、養護教諭1人
県の保健担当部局員（がん生活習慣病対策課）1人

○ 青森県健康福祉部がん生活習慣病対策課、がん診療連携拠点病院

2. 開催時期、検討内容

実施時期	検討事項	出席者
令和元年10月8日	第1回委員会 ○事業内容説明 ○学校におけるがん教育推進のための関係機関の連携 ○外部講師確保のための体制構築 ○がん教育の取組と指導資料についての検討	18人
令和元年12月16日	第2回委員会兼協議会 ○事業内容報告 協議 ○県のがん教育の今後の取組について	33人

② 教育委員会としての取組

○県内の健康教育実践指定校のうち9校（小学校3校、中学校3校、高等学校3校）をモデル校とし、がん教育を実践。実践内容については、「(2) モデル校における取組」に記載。

○外部講師による講演及び検討委員会において、本県で平成27年度から実施しているがん教育について、今後の進め方について検討するとともに、がん教育の手引きとなるような指導資料の作成について検討。第2回検討委員会兼協議会においては、検討委員以外の県内の教職員やがん教育外部講師（医師、看護師等）にも参加してもらい、がん教育への共通理解を図るとともに、地域の実情に応じた外部講師の活用方法や今後のがん教育の方向性について協議を行った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○青森県がん対策協議会にて、県内の学校におけるがん教育の実践について情報提供を行った。

○外部講師については、がん診療連携拠点病院等に依頼

(2) モデル校における取組

弘前市立大和沢小学校 12月5日(木) 13:35～14:20	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤 温 氏	6年生児童 保護者	○健康と命について考えよう ・「がん」という病気とは ・生活習慣との関わり
七戸町立七戸小学校 12月3日(火) 14:00～14:45	八戸市立市民病院 看護局副参事 佐藤 美穂 氏	6年生児童 保護者	○生活習慣病(がん)を知ろう ・がんの正体 ・がんと生活習慣との関わり ・がん予防のために自分ができること
むつ市立奥内小学校 12月13日(金) 14:05～14:50	むつ総合病院 副院長 葛西 雅治 氏	5・6年生 児童 保護者	○「がん」を知ろう
平内町立小湊中学校 11月6日(水) 14:25～15:15	県立中央病院 がん専門相談員 (看護専門官) 成田 富美子 氏	全校生徒 教職員 保護者	○がんを知る～健康といのちの 大切さ～ ・がんの基礎知識、生活習慣と の関わり ・中学生において気をつけるべ きこと
五所川原市立五所川原 第四中学校 6月6日(木) 13:10～13:55	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤 温 氏	全校生徒	○生活習慣病(がん)について
八戸市立明治中学校 7月19日(金) 10:35～11:25	県立中央病院 がん専門相談員 (技師) 飯村 健治 氏	全校生徒 教職員 保護者	○中学生の生活と生活習慣病と の関わり ・「がん」とは何か
県立青森商業高等学校 6月28日 12:10～13:00	県立中央病院 がん専門相談員 (技師) 飯村 健治 氏	全校生徒	○生活習慣病(がん)について ・生活習慣病(がん)とは何か ・生活習慣病(がん)の治療と 予防 など
県立鶴田高等学校 10月10日(木) 14:30～15:20	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤 温 氏	全校生徒 教職員 保護者	○生活習慣病(がん)を知る～ 命を守るために～
県立八戸高等学校 12月16日(月)※	東京女子医科大学 林 和彦 氏	1学年生徒 教職員 他	○今、学校で始まる「がん教育」

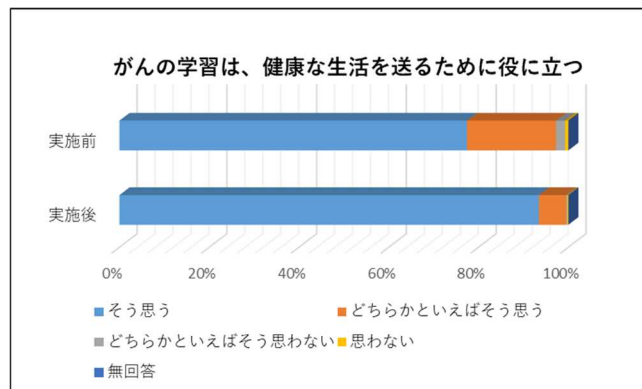
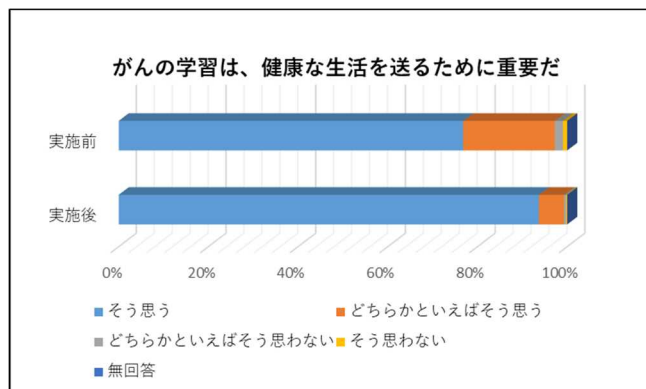
※ がん教育推進のための講演会

モデル校の1つである県立八戸高等学校で、東京女子医科大学 がんセンター長 化学療法・緩和ケア科教授 林和彦氏を講師に迎え、1年生生徒や関係部局、がん診療連携拠点病院、学校関係者等を対象に、『今、学校で始まる「がん教育」』と題して講演会を実施。【参加人数：生徒 232 人、教職員 21 人、関係部局 27 人】

2. 事業の達成度について

(1) モデル校におけるがん教育について

・児童生徒に対するアンケート結果から（抜粋）



質問	事前 (%) n = 1276				事後 (%) n = 1265			
	そう 思う	どちらか と いえ ば		そう 思 わ ない	そう 思う	どちらか と いえ ば		そう 思 わ ない
		そう 思う	そう 思 わ ない			そう 思う	そう 思 わ ない	
a 自分はがんにならないと思う。	12.5	24.2	29.4	33.9	10.9	18.1	25.1	45.9
d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	63.3	29.2	6.0	1.5	82.8	14.5	1.4	1.3
f がんになっても生活の質を高めることができる。	30.0	30.6	25.9	13.2	59.4	26.6	9.2	4.6
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	50.5	36.7	8.2	4.6	73.5	20.9	3.3	2.1

事業を実施したことにより、「健康な生活を送るために重要だ」「健康な生活を送るために役に立つ」という質問に「そう思う」と回答した児童生徒の割合が増え、がんの学習の重要性について認識が深まったものと考えられる。また、意識についての質問項目の変容をみると、誰でもがんになる可能性があることを認識したことやがん検診の受診への意識の向上を読み取ることができる。なお、がん教育を実施したことで、がんと共に生きる生き方についての理解も深まったことが分かる。

(2) がん教育推進のための講演会

生徒の感想（一部抜粋）

（1年女子）私は今日の講演で強く感じたのは、良いがん治療には、周囲の理解が不可欠だということだ。まず、家族の理解が必要である。また、地域社会の理解も必要だ。社会復帰がつかないようにサポートする社会を作らなければならない。それには1人1人の意識を変える必要があり、そのためにはまず自分が変わりたい。

（1年男子）以前から「2人に1人ががんにかかる時代」「がんはもう治らない病気ではない」ということを耳にしていたが、自分が仮にがんになったとしたら、自分の生活習慣の悪かったところを思い出して後悔するだろうと思っていた。しかし、それが例えしっかりしていてもコピペミスで運悪くがんになってしまふと知り、生活を見直す予防だけでなく、早期発見と早期治療を心掛けようと思った。治る希望が大きくなったとしても、がんを患ってしまった本人はいろいろなことを考えて辛いと思うので、その人の望みに合わせながら、苦しい気持ちに寄り添って支えられる人でありたい。がんについての知識や考え方は、誰もがもっておくべきだと、強く思った。（それでも、自分ががんだと分かっても、それを親しい人に言うのは辛いので、ある程度手を打ってから心の準備をしてから伝えたいというのが正直な思いだ。）

（1年女子）がんはよく分からないけれど怖いもの、という程度の認識だった。しかし、今日の講演の前半で、もしかしたら自分の考えは間違っているのかもしれないと感じた。そして後半で一気に考え方が変わった。がんは私の知っている以上に、考えなければならないことが多いと知った。

がんは恐れるべきものでもあり、恐れることはない病気でもあると思った。がんにならないうちは、常にがんの恐怖を頭の片隅に置き、積極的に検診を受ける。健康的な生活を心掛ける。しかし、ここまで意識していたとしても、がんになることがある。そんなときはこれまでよい生活をしてきた自分を信じ、家族や医師、医療サポートを支えにし、前向きにいたべきだ。これはとても難しいことだと思う。自分がなろうと、家族がなろうと、心の整理がつかないときがきっとあるはずだ。でも今日の講話を受けたのだから、この講話を思い返して、よい選択をしたいと思う。

(3) 検討委員会

検討委員会では、関係部局やがん診療連携拠点病院、学校関係者が共に学び、意見交換を行ったことで、各々の取組内容を共有でき、効果的な指導法や連携の仕方を考える良い機会となった。また、参加者の外部講師としての実践や、自校での実践への意欲につながるものであった。

指導資料の作成までは至らなかったが、指導資料の作成方法について、教員の指導力向上等の課題が明確となったため、次年度のがん教育の取組に活かす。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

がん教育の指導資料について形式や内容の検討を行った際、外部講師によるがん教育だけでなく、学校の教育活動全般を通してがん教育に取り組んでいく必要があることから、ワーキンググループを設置し、教職員が実践できる指導資料の作成を行ったほうが良いという意見が多く出たことを受け、次年度はワーキンググループを設置し指導資料の作成に取り組む。

また、教員のがん教育に対する共通理解と指導力の向上のため、次年度は教員向けのがん教育研修会の実施を検討する。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

モデル校以外でも、がん教育が実践できるよう、教職員向け指導資料の作成に向けて、がんサバイバーの方にも参画いただくこと、外部講師確保のための体制構築を行う。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全体で 14 人

内訳：岩手県医師会（学校保健技師）	1 人
岩手県立病院（がん専門医）	1 人
岩手県歯科医師会	1 人
岩手県保健福祉部	1 人
岩手県精神保健福祉センター	1 人
岩手県 P T A 連合会	2 人（小 1、中 1）
岩手県小学校長会	1 人
岩手県中学校長会	1 人
岩手県学校保健会（養護教諭部会）	1 人
岩手県教育委員会（事務局）	4 人

2. 開催時期、検討内容

■ 第 1 回協議会

(1) 開催日：令和元年 9 月 18 日（水）

(2) 協議内容

- ア がん教育総合支援事業の概要について
- イ がん教育に関する計画について
- ウ がん教育指導者向けマニュアルについて

■ 第 2 回協議会

(1) 開催日：令和 2 年 1 月 31 日（金）

(2) 協議内容

- ア 令和元年度事業報告
- イ マニュアルに係る意見交換
- ウ 来年度事業計画

② 教育委員会としての取組

■ がん教育指導者向けマニュアル作成検討委員会の設置

(1) 構成員（11 名）

大学教授 1 人、指導養護教諭 5 人（小学校 2、中学校 2、高等学校 1）、教諭 1 人（高等学校：家庭科）、養護教諭 2 人（小学校 1、特別支援学校 1）、事務局 1 人（保健体育課指導主事）

(2) 委員会の開催

ア 第 1 回作成検討委員会：令和元年 11 月 27 日（水）

【説明】

- ・ 岩手県がん教育総合支援事業の概要
- ・ 岩手県におけるがん教育のこれまでの経過
- ・ がん教育の現状と課題
- ・ 岩手県のがん教育推進における課題

【講義】

新学習指導要領に対応したがん教育について

講師：筑波大学体育系 教授 野津 有司 氏

イ 第2回作成検討委員会：令和元年12月12日（木）

- ・指導の展開例の協議
- ・野津教授からの指導助言

ウ 第3回作成検討委員会：令和元年12月13日（金）

- ・指導の展開例の協議
- ・野津教授からの指導助言

■教職員・外部講師を対象とした研修会の開催

（1）開催日：令和元年11月5日（火）

（2）参加者：108人

ア 所属内訳：小学校64人、中学校26人、高等学校11人、特別支援学校4人、県医師会3人

イ 職種内訳：指導養護教諭1人、養護教諭80人、教諭22人、副校長1人
医師1名、県医師会2人

（3）内容

ア 行政説明 「がん教育の実際」

イ 講義 「学校におけるがん教育の在り方と進め方」

講師 順天堂大学 大学病院医学研究科臨床薬理学 教授 佐藤 一洋 氏

【参加者の感想】

- ・小学校1～6年生までのそれぞれの発達段階にあわせた、どのような「がん」・「性」・「肥満」に対する知識理解、予防のための実践等について学びたい。
- ・令和2年度から実施する「がんに関する内容」の教育をどのように進めていけばよいかが明確になった。がん教育プログラムを活用し、正しい理解と自己の健康を意識させられるような指導を実践していこうと思った。
- ・がん教育についてはやらなければならないと思いつつ、なかなか着手できていない。今回の研修で、指導のイメージを持つことができたし、資料が多くあることを知り、さらに詳しく調べ来年度に向けて計画をしていきたい。
- ・既に計画している薬物乱用防止教室などでもがんについて触れていくようにしたい。
- ・がん教育を行うにあたり、体育や保健だけでなく、様々な教科・分野・関係機関と共通理解をもち推進していくことが大切だと感じました。また、がん教育を通じ、発達段階に応じて、子どもたち一人ひとりが“自分事”として捉えられる様、そして、自らの命や家族・周囲の人たちの命の大切さを感じ、そのうえで自分の生活習慣を考えたり、健康について考え行動できる意識付けの機会を作ることについて、養護教諭として提案していきたい。

■外部講師派遣事業

（1）目的

県立学校2校に外部講師を派遣し、事前事後調査を実施することでがん教育実施の効果等について検証をする。

（2）実施内容

	盛岡北高等学校	福岡高等学校
1 日 時	令和元年10月29日（火） 15:20～16:30	令和元年11月11日（月） 15:00～16:00
2 対象者	3学年 233名	1学年 144名

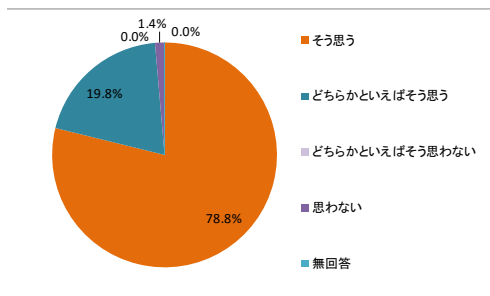
3 講師名	岩手医科大学医学部緩和医療学科 教授 木村 祐輔 氏	県立二戸病院 副院長心得兼感染症管理室長 川村 英伸 氏
4 内 容	・がんとは（がんの要因等） ・がんの種類とその経過 ・我が国のがんの状況 ・がんの予防 ・がんの早期発見 ・がん検診 ・がんの治療法 ・がん治療における緩和ケア ・がん患者の生活の質 ・がん患者への理解と共生	・がんとは（がんの要因等） ・がんの種類とその経過 ・我が国のがんの状況 ・がんの予防 ・がんの早期発見 ・がん検診 ・がんの治療法 ・がん治療における緩和ケア ・がん患者の生活の質 ・がん患者への理解と共生

【アンケート結果より】

<盛岡北高等学校>

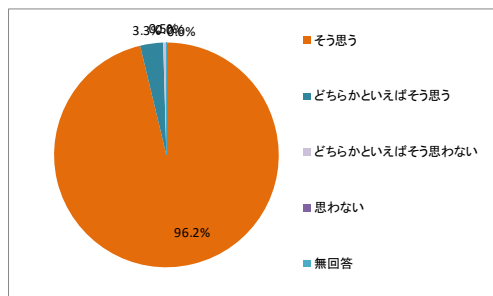
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	175
どちらかといえばそう思う	44
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	3
無回答	0



a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（事業実施後）

(単位：人)	
そう思う	205
どちらかといえばそう思う	7
どちらかといえばそう思わない	1
思わない	0
無回答	0



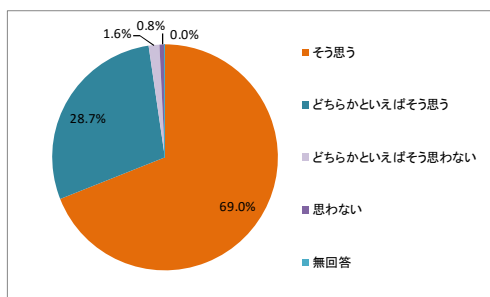
●成果（担当者記入）

がんについての正しい知識を与える機会となり、生涯、健康な生活を送るために行動選択できる力の育成の一助となった。

<福岡高等学校>

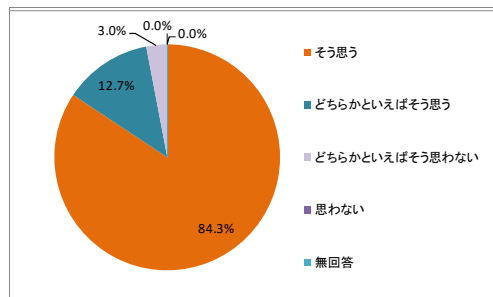
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	89
どちらかといえばそう思う	37
どちらかといえばそう思わない	2
思わない	1
無回答	0



c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	113
どちらかといえばそう思う	17
どちらかといえばそう思わない	4
思わない	0
無回答	0



●成果（担当者記入）

- ・がんを身近なものとしてとらえ、生活習慣を見直す意識が高まった。
- ・がんが命と健康にとって重要な課題である認識が高まった。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・外部講師の派遣について、がん診療連携拠点病院、県医師会、対がん協会等と連携して行った。
- ・県がん対策推進協議会の中で、がん教育総合支援事業における取組について共有した。

2. 事業の達成度について

(1) 協議会の実施

協議会委員に対する評価アンケートを実施し、「協議会として十分な支援を行えたか」について、「支援できた」と回答した委員は75%であった。協議会における意見交換を通じて、外部講師の拡充の必要性和、研修の重要性を確認することができた。

(2) 「いわてのがん教育指導者向けマニュアル」の作成

当該マニュアルの作成に当たり、学習指導案の展開例、外部講師活用事例、個別指導の事例に取組んだ。

(3) 教職員・外部講師を対象とした研修会の開催

・教職員を対象とした学校保健研修会を5年間の悉皆研修として開催し、本年度が5年目となり、県内全ての公立学校が研修を終えることとなった。

・研修者アンケートにおいて、「とても満足【A】」77.2%、「満足【B】」22.8%という結果であった。

・当該研修会の参加者について、がん診療連携拠点病院、県医師会に案内したところ、少数ではあったが医師等の参加を得た。

・がん診療連携拠点病院の医師から、「今後、外部講師を行う高校での講義のイメージを持つことができた。医師として教えたいことだけではなく、配慮事項や発達段階に応じた内容等について、十分に学校関係者と事前の打合せを行っていきたい。」という感想があった。

(4) 高校における外部講師を招聘したがん教育講演会の実施

がん診療連携拠点病院に講師派遣を依頼し、がん教育講演会を実施した。

(5) 外部講師のリスト作成

がん診療連携拠点病院、県医師会、対がん協会、県保健福祉部と連携し、外部講師の増員を図り、外部講師のリスト化に取組んだ。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

(1) 「いわてのがん教育指導者向けマニュアル」の内容の充実と周知。

・学習指導案の作成に当たっては、作成検討委員の構成に課題があり、教諭（特に保健体育科）を加える必要がある。

・マニュアルの活用を推進するため、マニュアルを活用した実践事例の紹介等の内容を盛り込んだ研修会を開催し、周知する必要がある。

(2) 外部講師の拡充と研修会の開催

・保健福祉部と連携し、さらに外部講師の育成を進める必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

(1) 教職員の研修

学習内容や指導方法の工夫、教材の選定に課題を感じている学校が多いことから、研修会を開催し、「いわてのがん教育指導者向けマニュアル」の活用について周知する必要がある。

(2) 外部講師等の人材確保

外部講師の活用を推進していくためには、外部講師の拡充とともに外部講師のリスト化等、各校が依頼する際の窓口を明確化する必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（全員で15人）

- ・管理指導医1名、がん専門医1名、がん教育アドバイザー1名、小学校長会1名、中学校長会1名、高等学校長会1名、特別支援学校長会1名、養護教諭連絡協議会1名、健康福祉部局1名、県教育庁スポーツ保健課長1名、スポーツ保健課事務局5名

2. 開催時期、検討内容

- ・第1回（令和元年6月11日）：がん教育の普及・推進に向けた計画の検討
- ・第2回（令和2年1月17日）：がん教育に関する実践の検証、次年度方針の検討

② 教育委員会としての取組

1. モデル校の指定（4校）：上山市立北中学校、鮭川村立鮭川中学校

山形県立置賜農業高等学校、山形県立庄内総合高等学校

- ・モデル校への外部講師(がん教育アドバイザー)の派遣

山形県立置賜農業高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和元年9月26日

講師：山形県立河北病院 奥山慎一郎 医師

対象：1年生80名

内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会。

山形県立庄内総合高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和元年10月11日

講師：訪問診療クリニックやまがた 奥山慎一郎 院長

対象：全校生285名

内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会。

上山市立北中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和元年10月17日

講師：訪問診療クリニックやまがた 奥山慎一郎 院長

対象：全校生徒225名

内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会。

鮭川村立鮭川中学校へ外部講師を派遣し、生徒、保護者対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和元年11月28日

講師：訪問診療クリニックやまがた 奥山慎一郎 院長

対象：3年生30名

内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会。



＜がん教育講演会の様子：高等学校＞



＜がん教育講演会の様子：中学校＞

2. がん教育指導者・外部講師研修会の開催

令和元年度がん教育総合支援事業がん教育指導者・外部講師研修会

日時：令和元年9月6日

行政説明：『これまでのがん教育総合支援事業の取組みについて』 スポーツ保健課担当

講師：日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科 教授 助友裕子 氏

演題：『学校におけるがん教育の効果的な指導方法について』

～新学習指導要領の全面实施を見据えて～

会場：山形市スポーツセンター大会議室

参加者：37名



＜研修会の様子：行政説明＞



＜研修会の様子：講演＞

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・健康福祉部局との連携を図り、モデル校の生徒に大切な家族へ検診を促す、メッセージカードの配布。

（2）モデル校における取組

【上山市立北中学校での取組】

0 時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

1・2 時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする。）

* ②教育委員会としての取組「1. モデル校への外部講師の派遣」を参考

3 時間：保健分野（グループ活動を通し、がんを予防する生活習慣、がん検診の必要性について、また近い将来にやってくるであろう、がんと共生する生き方について理解を深める。）

4 時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【鮭川村立鮭川中学校での取組】

0 時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

1・2 時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする。）

*②教育委員会としての取組「1. モデル校への外部講師の派遣」を参考

3 時間：保健分野（グループ活動を通し、検診受診率向上のための方策について検討し、がんについての正しい理解を深める。）

4 時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【置賜農業高等学校での取組】

0 時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

1・2 時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする。）

*②教育委員会としての取組「1. モデル校への外部講師の派遣」を参考

3 時間：科目「保健」（グループ活動を通し、がんを予防する生活習慣について、がんと共生する生き方について思考・判断し、理解を深める。）

4 時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【庄内総合高等学校での取組】

0 時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

1・2 時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする。）

*②教育委員会としての取組「1. モデル校への外部講師の派遣」を参考

3 時間：科目「保健」（グループ活動を通し、がんを予防する生活習慣について、また近い将来にやってくるであろう、がんと共生する生き方について思考・判断し、理解を深める。）

4 時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）



＜研究授業の様子：中学校＞



＜研究授業の様子：高等学校＞

2. 事業の達成度について

モデル校における文部科学省アンケート結果（一部抜粋）

(%)

質 問	授業前	授業後	増加
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	65.5	89.0	23.5
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	70.1	89.0	18.9
がんは日本人の死因の第2位である。（誤り）	44.8	65.1	20.3
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	52.0	66.9	14.9
がんになっても生活の質を高めることができる。（そう思う）	22.4	42.0	19.6
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	43.8	65.8	22.0

- ・ とても良いお話を聞かせて頂きありがとうございました。私はまだ近くにいる人ががんになったことはありませんが、できるだけ側にいたいと思います。私の父はあまりしゃべりません。タバコをよく吸うし、立ち上がったとき顔をしかめる瞬間があります。今まで「病院は？」と聞いても答えてくれたことはありません。とても心配です。でも、とても大事な家族です。しつこく言って、これからは大事にします。がんになってほしくないからです。先生から聞いたことも交えてコミュニケーションをとっていきたいと思います。

(中学3年生・女子)

- ・ 今回の講演会は、とてもためになりましたし、楽しかったです。僕の家族や友達がもし病気になったら、僕もなんて声を掛けたいかわからなくなってしまうと思います。しかし、そんな時こそ側にいてあげたいです。

(中学3年生・男子)

- ・ がんの話だけでなく、もっと大切なことを学んだと思います希望を持つことの大切さや隣にいてくれる人の重要さ、私には当たり前で気づかなかったけど、今日話を聞いて当たり前じゃないと気づかされました。(中学1年生・女子)

- ・ 自分の友達や親が病気になった時、焦って声をかけようとするだけ考えていたけど、その必要はないことが分かった。今後このようなことがあれば、思い出そうと思う。もっと生きることや死ぬことについて考えたいと思った。(中学2年生・女子)

- ・ 今、自分が健康でいられる事の幸せを改めて感じることができ、周りに人がいるということはとても心強い事だと感じました。とても良い話、ありがとうございました。(高校1年生・女子)

- ・ 病気（がん）は怖い事だけど、そんな時こそ落ち着いてがんを治すにはどうすればいいのかを考えることが大切なんだと思った。がんは年齢関係なくなることでも分かったので、自分がなった時や友達になった時などを考えて生活することも重要だと思った。(高校1年生・女子)

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

①外部講師候補者のリスト化に向けて

がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合は、専門的な内容を含むため、学校医、がん専門医など医療従事者による指導が効果的である。学校からの照会にも備えた候補者リストや地域のがん診療連携拠点病院との連携、講師謝金の補助など外部講師活用の支援体制の充実を図る必要がある。

また、9月に仙台市で開催されたがん教育研修会に、山形県から5～6名のがん経験者や看護師の方からも参加いただき、情報交換することができた。県内のがん教育の普及につなげていきたい。

②がん教育の普及

これまででもがん教育総合支援事業に取り組んできたが、学校における取組はまだまだこれからの状態である。各学校の健康課題がたくさんある中で、がん教育の時間確保が難しい状況である。

保健体育科や養護教諭を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて行うことが大切であり、今後も教員を対象にした啓発を図り、粘り強く取り組んでいく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・教職員だけでなく、外部講師等を対象とした研修会の充実
- ・外部講師の育成や派遣などの体制整備
- ・モデル校での授業実践例の周知方法

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（全員で22人）

【内訳】学識経験者（大学教授）1人、学校医代表（医師会）1人、看護師・保健師代表1人、がん診療連携協議会（がん専門医）1人、がん経験者・家族会代表1人、研究推進校（校長）1人、中学校長会1人、高等学校長協会1人、中学校教育研究会保健体育部会（校長）1人、高等学校教育研究会保健体育部会（校長）1人、県学校保健会養護教諭部会（養護教諭）1人、県学校保健会保健主事部会（教諭）1人、保健福祉部（健康づくり推進課長、地域医療課長）2人、県教育庁健康教育課長1人、事務局（健康教育課5人、保健福祉部2人）

2. 開催時期、検討内容

実施期日	内 容	出席者数
6月19日(水) 13:30～15:30	<u>〈第1回がん教育推進協議会〉</u> (1) 福島県がん教育実践事業について (2) モデル校における事業計画について ・研究公開の方向性 (3) 外部講師リストの活用について ・外部講師を活用したがん教育について ・養成研修会について (4) 次年度のモデル校の選定について	15名
1月29日(水) 13:30～15:30	<u>〈第2回がん教育推進協議会〉</u> (1) モデル校の実践報告 (2) 今年度の成果と課題 (3) 来年度のがん教育総合支援事業の見通しについて	14名

② 教育委員会としての取組

○ 教員対象研修会の開催

実施期日	内容等	出席者数
① 9月 6日(金) 白河合同庁舎	(1) 行政説明「がん教育について」健康教育課指導主事	計424名
② 10月 1日(火) 郡山市中央公民館	(2) 講義「がん教育」の特別活動における指導の在り方 演習「授業づくり」 講師 福島市立野田小学校 副校長 齋藤 亮一 氏	
③ 10月 10日(木) とうほう・みんなの文化センター	対象：小学校・中学校・義務教育学校・高等学校及び特別支援学校の養護教諭（県北・県中・県南）の悉皆研修	

○ 外部講師相談窓口事業

- ・外部講師リストの整備と外部講師の紹介

【外部講師登録状況】 123件

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、患者会・家族、遺伝カウンセラー、支援団体、社会福祉士、放射線技師、作業療法士、検査技師 等

【外部講師活用状況（相談窓口事業利用）】 14校（小学校8校、中学校3校、高等学校3校）

学校医以外の医師を活用した学校 5校

医師以外の外部講師を活用した学校 9校

- ・養成研修会の開催

実施期日	内容等	出席者数
9月21日(土) 15:00～17:40 パルセ飯坂 (福島市)	(1) 行政説明「学校におけるがん教育について」 健康教育課指導主事 (2) 講演「今、学校で始まる『がん教育』」 講師 東京女子医科大学 教授 林 和彦 氏 対象：学校医、学校歯科医、学校薬剤師、医療関係者、がん患者会 (経験者、家族等)、行政担当者、教職員等	103名

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○ 保健福祉部との連携

- ・外部講師リストの作成への協力依頼
- ・保健福祉部関連事業の教育活動への活用（受動喫煙防止ポスターコンクール等の募集、講演会等の周知）
- ・福島県がん対策推進審議会へ出席し、学校におけるがん教育と事業への理解と協力を依頼した。

○ がん患者会との連携

- ・がん患者会主催の研修会へ参加し、がん教育や事業に関する講義を行い、がん教育への協力を依頼した。

(2) モデル校における取組

【指定校 2校】 県立会津学鳳中学校、県立会津学鳳高等学校 ※中高一貫校

○ 取組のテーマ：中学校と高等学校の連携のもとに行うがん教育の実践

中学校～がんについての理解を深め、がん予防の大切さに気付く活動の実践

高等学校～がんについての理解を深め、がん予防の大切さに気付く活動の実践

○ 校内研修会（教員対象）

- ・実施日 9月18日（水）

- ・内 容 行政説明 健康教育課指導主事
伝達講習 文部科学省主催がん教育研修会の伝達講習として、校内での教員向け研修を実施した。



○ 生徒向け講演会の開催

- ・10月17日（木） 中学校がん教育講演会 中学3年生対象

演題 「がん」と共に生きる社会

講師 がんピアネットふくしま理事長 鈴木 牧子氏

内容 がんの治療法や先進医療
がん患者会の発足とその活動等について



- ・10月18日（金） 高等学校がん教育講演会 高等学校1年生対象

演題 がんを知り、がんを予防し、がんになっても自分らしく生きよう

講師 福島県立医科大学附属病院乳腺外科学講座

医師 立花 和之進氏

内容 がん治療にかかわる医療の現場から、専門的知識を学ぶ



実施日 10月29日(火)

内容等	出席者数
①公開授業 中学校：3学年、道徳「湖の伝説」 外部講師 鈴木 牧子氏（がんピアネットふくしま理事長） ＊外部講師を招聘し、「教科のねらいを踏まえた授業で取り組むことのできるがん教育」を想定した道徳の授業公開。  高等学校：1年2組、保健体育「生活習慣病とその予防」 外部講師 立花 和之進氏（福島県立医科大学附属病院乳腺外科学講座医師） ＊外部講師を招聘した保健体育科授業。文部科学省から提供されている教材を活用した「授業の中で取り組むことができる」授業の公開。 	学校関係者 62名 外部関係者 15名 協議会委員 5名 計82名
②全体会 ・基調講演「新学習指導要領に基づくがん教育の進め方」 講師 東海大学体育学部教授 森 良一 氏 ・研究発表 会津学鳳中学校、会津学鳳高等学校 ・指導助言 東海大学体育学部教授 森 良一 氏 参加対象者：教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、がん教育推進協議会委員、教育事務所・教育委員会の関係職員、行政担当者、外部講師登録者	

○ がん教育年間カリキュラムづくり
がん教育の視点から見たカリキュラム編成

年間カリキュラム														
中学校　がん教育の関連														
		学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保健教育	全体指導・講話		健康診断	健診事後措置	●保健講座 (性に関する) (3年) 保健厚生部					●健康教育講座 (放射線)(全学年) 保健厚生部 ●薬物乱用防止 (全学年)生徒指導部	●食育講座 (1年) 保健厚生部			保健講話の実施
教科指導・特別活動等	国語	3年	握手(キ)(ク)(ケ)											
	社会	3年											政府の役割と国民の福祉(イ)	
	数学													
	理科	3年											放射線の性質と利用(ア)(ウ)	
	保健体育	1年											健康の成り立ちと病気の発生要因(ア)(ウ)(オ)	
		3年												
	技術・家庭	1年												
		2年												
		3年												
	英語													
	道徳	1年												
		2年												
		3年												
	学級活動	1年												
		2年												
3年														
総合的な学習の時間	1年													
	2年													
	3年													

がん教育の具体的な内容

(ア) 眼とはどのような病気か

(イ) がんの現状

(ウ) がんの経過と種類

(エ) がんの予防

(オ) がんの早期発見・がん検診

(カ) がんの治療法

(キ) がん治療における緩和ケア

(ク) がん患者の生活の質

(ケ) がん患者への理解と共生

2. 事業の達成度について

モデル校における文部科学省アンケート結果（一部抜粋）

・会津学鳳中学校

(%)

質 問	授業前	授業後	増 加
がんの学習は、健康な生活を送るために重要である（そう思う）	68.3	74.4	6.1
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	69.5	73.2	3.7
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行う等健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	47.6	53.7	6.1
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（思わない）	22.0	29.3	7.3
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	22.0	36.6	14.6

・会津学鳳高等学校

(%)

質 問	授業前	授業後	増 加
がんの学習は、健康な生活を送るために重要である（そう思う）	71.2	85.7	14.5
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	71.2	84.3	13.1
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	24.3	37.4	13.1
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	33.2	44.8	11.6
長生きするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	65.0	71.7	6.7

講演会後の生徒感想より（一部抜粋）：中学校

- ・講演を聞いて、「がん患者も、社会で生きるひとりの人間」という言葉が印象に残った。がんなどの病気を持った人がいることは普通で、他の人と変わらない接し方をしていくことが大切だと分かった。
- ・誰でもがんになることがあると知って少し不安になったが、甲状腺の心配は減ったことを知り、安心した。がんは治る可能性もある病気だが、検診に行かなければならないときはしっかりと検診に行こうと思った。

公開授業後の生徒感想より（一部抜粋）：中学校

- ・がんになっても前向きな気持ちで、がんと闘っている人たちは本当にすごいと思うし、小さなことで「ああ、嫌だな」と言っている自分が情けないと思いました。これからは生きていくことに感謝したいと思います。
- ・がんになってもならなくても、私たちはいつか死んでしまうから、死ぬときに「幸せだった」と感謝できるような日々を送りたいと思った。自分がこれから困難なことに立ち向かうとき、前向きな気持ちで乗り越えられるような人になりたい。
- ・あたりまえだと思っていることは、いつ、どこで失われるかわからないということを学んだ。でもそれ以上に、節子さんの絵に対する強い気持ちや他人を思いやる優しさ、周りの方々の支えが幾度もの困難や苦勞を吹き飛ばす原動力になるのではないのかと思った。自分も節子さんのような、諦めない強い心、他人を思いやる優しさを持つ人間になりたい。そして困っている人を助けてあげられるよう努力したい。

公開授業で出された生徒の意見（一部抜粋）：高等学校

がんにならないための家族への言葉かけ

- ・タバコ吸いすぎじゃない？長生きしてほしいな。
- ・酒、ひかえようか。
- ・お腹すいたなら、野菜を食え。菓子はやめよう。
- ・ゴロゴロしてないで一緒に散歩しよう。
- ・夜更かしせずに、ちゃんと寝ろよ。
- ・〇〇ちゃんのお父さんはやせてるよ。
- ・学校で習ったけど、がんは誰でもなるらしいよ。
- ・（健康番組を見ながら）検診行こう。

協議会委員のアンケート結果より（一部抜粋）

- ・モデル校での実施により具体例を示すことができたことは、イメージを作りやすくする上でとても良かった。ただ、ここまで大変な苦労を重ねないと行えないとの感想も当然出てくるので、がん教育スタートのハードルは高くない、もっと簡単にスタートさせることができるというサンプルの提示も必要だと思う。
 - ・カリキュラムの中に入れることのできる無理のないモデルケース（教材）の提示。
 - ・外部講師にとらわれ過ぎているように思う。教職員のみでも充分できる内容ですし、毎年、今後新しい学年に行っていくものなので、誰でもが、容易に理解し、利用できる方法の提示がないと、毎年協力してもらえる医大の医師と全ての学校に行ってもらえる専門医がいる訳ではない。全ての学校でモデル校の様なことが行える訳ではないことも配慮すべきかと思う。学校医の協力が最もハードルが低いと思うが、全ての学校医が前向きに動いてくれるとは限らない。
-
- 協議会を開催したことにより、福島県におけるがん教育について関係者の共通理解が図られ、今後がん教育を進めていくうえで、それぞれの立場での考えを共有できた。
 - 教育委員会として外部講師リストを整備したことにより、各学校において外部講師を活用しやすくとともに、教育委員会と関係機関等との連携が図られた。
 - 研修会等を通して、各学校において学校全体でがん教育を推進することができるよう、新学習指導要領への対応や校内体制の在り方について説明し、理解を求めることができた。
 - 研究推進校研究公開において、授業モデルや年間カリキュラム例を提示したことにより、参加者が学校でのがん教育の取組に対するイメージを持つことができた。
 - 外部講師養成研修会を通して、学校でのがん教育の必要性について外部講師の方々に理解していただけた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- モデル校の取組等を県内に周知していく必要がある。そこで次年度は、モデル校を地域や校種等を考慮し、バランスよく選定していきたい。
- 各学校においてがん教育が推進されるよう、教育課程と連携を図った指導計画や具体的な取組例等を啓発する必要がある。また、実際の指導内容に関する学校のニーズを把握する必要がある。
- がん教育を推進するにあたり、国の課題として挙げられている「教師のがんについての知識・理解が不十分」といった点では、研究公開への教科担任等（管理職、養護教諭を除く）の参加が8人（全体の9.8%）であることから、本県の課題として捉えていく必要がある。今年度は養護教諭対象に研修会を実施したが、保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて行うことが大切であるため、学級担任や保健体育科教員等に対しても周知し、各学校においてがん教育の推進者を増やしていけるような研修会の機会を活用し啓発していく必要がある。
- 多くの方に外部講師として登録いただいたが、学校の活用が少なかった。今後、外部講師を活用することのメリット等を啓発し、活用を促進していきたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 外部講師の派遣に対する旅費や謝金についての考え方を協議し、財源の確保も含めた今後の方針を考えていく。
- 外部講師リストを各学校が活用しやすくなるために、リストの整備と活用法の工夫を図っていく。
- 校種ごとに指導実践例を示す必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で13人【内訳：がん専門医、予防医療専門医、医師会(学校医)、がん体験者、がん体験者支援団体代表、公立小学校教諭(保健体育免許保有)、公立中学校保健体育科教諭、県立高等学校保健体育科教諭、公立小学校養護教諭、県保健福祉部疾病対策課がん対策推進室長、県教育庁義務教育課指導主事、県教育庁高校教育課指導主事、県学校教育部保健体育課長】

2. 開催時期、検討内容

7月19日(金) 第1回協議会(令和元年度がん教育推進計画の検討) 出席者13名
1月31日(金) 第2回協議会(がん教育講演会実施報告、事業成果の検証) 出席者11名

② 教育委員会としての取組

1. がん教育に関する研修会

日時：令和元年8月5日(月)

内容：学校保健・学校安全指導者研修会で、小・中・義務教育・高等・中等教育・特別支援学校の教職員に対し、がん教育について理解を深めるため、大学教授による専門の講義や小・中・高のモデル授業の発表を行うなどの研修を行った。【参加人数：教職員865人】

2. 児童生徒対象のがん教育講演会

小学校7校、中学校6校、高等学校5校、計18校の児童生徒を対象に、医師等やがん体験者による講演を行い、がんそのものの理解やがん体験者に対する理解を深めた。

<外部講師を活用した講演会>

【小学校7校】

大洗町立南小学校、牛久市立向台小学校、
稲敷市立沼里小学校、八千代町立下結城小学校、
取手市立六郷小学校、石岡市立関川小学校、
常総市立大花羽小学校

【中学校6校】

利根町立利根中学校、水戸市立常澄中学校、
結城市立結城南中学校、日立市立坂本中学校、
潮来市立牛堀中学校、牛久市立下根中学校

【高等学校5校】

県立水戸南高等学校、県立波崎高等学校、県立古河中等教育学校
県立土浦湖北高等学校、県立結城第二高等学校



<がん教育教材>



3. がん教育教材の作成・配付

がん教育教材「知っていますか？がんのこと」の作成・配付をするとともにがん教育指導参考資料をHPへ掲載し活用促進を図った。

【配付対象】小学6年生、中学3年生、高校1年生、特別支援学校(小・中・高)

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 県保健福祉部局と連携・協力し、がん拠点病院等への講師登録依頼を行った。また、医療機関主催の協議会等へ参加し、がん教育の理解・啓発を図るとともに、引き続き、学校への協力を依頼した。
- 教材や指導参考資料に掲載しているデータ等について、県保健福祉部局の協力を得ながら修正を行った。
- がん教育講演会の講師の選定にあたっては、医師等の派遣を希望する場合には県内のがん拠点病院等で外部講師リストに登録している医師等に、がん体験者の派遣を希望する場合にはがん体験者団体等の協力を得て講師の選定・派遣を行った。
- 健康や命の大切さをねらいとする場合は、がん体験者の外部講師を活用する学校が多いことから、がん

体験者団体が作成したリストの提供を依頼し活用を図った。

- ・ がん体験者団体のスピーカークバンクの研修会に県から担当者を派遣し、講演会実施に係る留意点等の共通理解を図った。

(2) モデル校における取組

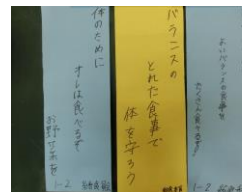
小学校 7 校，中学校 6 校，高等学校 5 校，計 18 校において，各学校の計画に基づき，医師等又はがん体験者を講師として派遣し，講演会を開催した。発達段階や学校の実情に応じて目標を設定し，科学的な根拠に基づいたがんについての正しい知識やがん患者に対する正しい認識について学んだ。

小学校においては，学級担任を中心に保健領域の病気の予防の授業と関連させて学級活動の中で取り扱ったり，県版のリーフレットに記載してある読み物資料を活用した特別の教科道徳における生命の尊重として取り扱ったりするなど，がん教育の目標を達成できるよう教育活動全体をとおして計画的に実施した。

中学校及び高等学校では，教科担任及び養護教諭を中心に保健の授業を核とし，発展学習として講演会を位置付けることで，より効果が高まるようにした。



＜中学校講演会＞



＜中学校事後活動＞



＜小学校事前指導＞



＜小学校講演会＞



＜高等学校講演会＞

【学年別受講児童生徒数】

(人)

学年	小5・6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合 計
人数	340	249	245	738	396	49	289	2, 306
合計	340	1, 232			734			

【児童生徒以外の参加者】

(人)

	教職員	保護者	その他	合計
小 学 校	84	35	33	152
中 学 校	112	42	2	156
高等学校等	70	5	1	76
合 計	266	82	36	384

【講演会に利用した教育課程】

	保健体育	道徳	総合	特活	その他	合計
小 学 校	0	1	0	5	1	7
中 学 校	1	0	1	4	0	6
高等学校等	2	0	1	1	1	5
合 計	3	1	2	10	2	18

(3) その他 ＜外部講師活用の工夫＞

- ① 医師等を講師とした講演会では，指導の標準化を図るため，教育委員会で作成したスライドを活用し，指導内容の共通理解を図るとともに，講師が適宜活用できるよう配慮した。
- ② がん体験者の講演を行うにあたっては，がん体験者団体が主催する研修会において，県の担当者ががん教育に関する国や県の動向及び講演会に係る留意点等を含めた内容を伝達するなど事前に十分な打合せを行い，県の取組について共通理解を図った。
- ③ 文部科学省作成のガイドライン，教材及び県版のリーフレット等を提供し，適宜活用するよう依頼した。
- ④ 打合せ内容及び手順等を円滑に進めるため，学校へ配付している参考資料である「外部講師の活用にあたって」を外部講師へ提供し共通理解を図った。
- ⑤ 文科省主催の「がん教育指導者研修会」の開催を案内し，参加を働きかけた。

2. 事業の達成度について

がん教育講演会実施校（小学校7校，中学校6校，高等学校5校，計18校）の児童生徒を対象に，講演会の事前及び事後にアンケートを行い，その比較により第2回がん教育推進協議会において事業評価検証を行った。

（1）児童生徒の事前・事後アンケート結果（主なもの）＜令和元年度＞

〔1〕がんの学習について〕

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」から選択。

[事前] [事後]

- | | |
|---------------------------------------|---------------|
| a 「がんの学習は，健康な生活を送るために重要だ。」（そう思う）…………… | 74%→88% (+14) |
| b 「がんの学習は，健康な生活を送るために役立つ。」（そう思う）…………… | 75%→88% (+13) |

〔2〕知識編〕

※「正しい」、「誤り」から選択。

[事前] [事後]

- | | |
|--|---------------|
| a 「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」（正しい）…………… | 93%→98% (+5) |
| b 「がんは進行すると，今まで通りの生活ができなくなったり，命を失ったりすることがある」（正しい）…………… | 96%→96% (±0) |
| c 「がんは日本人の死因の第2位である」（誤り）…………… | 56%→73% (+17) |
| d 「たばこを吸わないこと，バランスよく食事をする，適度な運動をすることなどによって，予防できるがんもある」（正しい）…………… | 93%→95% (+2) |
| e 「早期発見すれば，がんは治りやすい」（正しい）…………… | 92%→96% (+4) |
| f 「体の調子がよい場合は，定期的に検診を受けなくてもよい」（誤り）…………… | 90%→92% (+2) |
| g 「がんの治療法には手術治療しかない」（誤り）…………… | 81%→89% (+8) |
| h 「がんの痛みは我慢するしかない」（誤り）…………… | 85%→86% (+1) |

〔3〕意識編〕

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」から選択。

[事前] [事後]

- | | |
|--|---------------|
| a 「自分はがんにならないと思う」（思わない）…………… | 30%→40% (+10) |
| b 「将来，たばこを吸わないでいようと思う」（そう思う）…………… | 85%→89% (+4) |
| c 「日頃から，バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）…………… | 55%→72% (+17) |
| d 「がん検診を受けられる年齢になったら，検診を受けようと思う」（そう思う）… | 56%→74% (+18) |
| e 「がんの治療方法はいくつかあるが，医師が決めるものである」（思わない）…………… | 18%→32% (+14) |
| f 「がんになっても生活の質を高めることができる」（そう思う）…………… | 24%→44% (+20) |
| g 「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」（そう思う）…………… | 63%→74% (+11) |
| h 「がんと健康について，まずは身近な家族から語ろうと思う」（そう思う）… | 44%→61% (+17) |
| i 「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」（そう思う）…………… | 85%→89% (+4) |
| j 「長生きをするために，健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）… | 74%→81% (+7) |

（2）がん教育講演会を実施して効果が上がったものと考えられる事項

児童生徒は，がん教育講演会を実施したことにより，がん教育の必要性を感じるとともにがんに関する正しい知識を身に付けることができた。また，習得した知識をもとに健康や命の大切さについて主体的に考え，実生活に生かそうとする態度を身に付けることができた。

＜効果が上がったアンケート項目＞

- ・がん教育の必要性について〔1〕がんの学習について a, b]
- ・がんに関する正しい知識〔2〕知識編 c]
- ・がんの予防について（運動・食事・検診等）〔3〕意識編 c, d, e, h]
- ・がん患者への認識〔3〕意識編 f, g]

(3) 考察

児童生徒は、がんを身近な病気であると認識し、がんの要因や予防のための基本的な知識、がんを予防するためのがん検診の重要性について理解を深めるとともに、がん患者に対する正しい認識や命の大切さについて理解を深める様子が見られた。

小学校においては、主にがんを通じて命や健康の大切さを理解することねらいとして授業を展開した。講演会後には、自分の健康だけでなく、家族の健康について真剣に考えたり、手紙等で家族へ学んだことを伝えたりする姿が見られた。

中学生や高校生になると自分や家族のことはもちろんのこと、友達や周囲へも目を向けながら社会の一員として、今の自分にできることについて考えたり、がんにかかった人の気持ちを理解しようとしたりすることができた。

アンケートの結果から、児童生徒のがんに関する知識は概ね定着しつつあると考えられる。これまでの取組が着実に成果を上げているといえる。がんを含む健康教育に関しては、児童生徒がいかに“自分のこととして捉えることができるか”が課題であるといえる。そのためには、医師等やがん体験者の専門性を生かした講演会を発達段階やねらいに応じて実施し、実感を持った理解ができるようにすることが大切であるとする。外部講師の活用を推進していくためには、引き続き、外部講師の確保や指導者研修、教材作成等の事業を継続していく必要がある。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

今年度は、医師等の外部講師として42名が登録をし、がん体験者については約30名程度がスピーカーバンクに外部講師として登録をしている。登録数は増加傾向にあるが、講師として登録しているものの学校での講演を経験していない講師もいる。今後、医師等やがん体験者による講演会や出前授業を県内に広げていくためには、講師の確保（引き受けていただける講師の数及び質の担保等）が課題となる。引き続き、県医師会や患者会、県保健福祉部局と連携・協力するとともに、学校医等への協力を依頼するなど、外部講師の充実を図っていく。また、県教育委員会担当者が講師として参加し、がん体験者団体と共通理解の下で講師の資質向上を図っているがん体験者研修会については、今後も継続していく必要がある。さらに、県保健福祉部局や県医師会等の協力を得ながら、医師等の外部講師対象研修会の開催について検討が必要である。

教員のアンケートからは、「講演会の内容の検討や講師との打合せの時間確保が難しい」「事前事後指導を含めた指導時間の確保が難しい」等の意見が出された。がん教育は、健康教育の一環として行うこととなっていることを踏まえ、学校保健計画に位置付けるとともに、発達段階に応じた指導内容を精選すること、県版教材や文部科学省作成資料等を用いた授業計画作成についての校内研修を行うことなど、県内の担当教員に対する意識啓発がさらに進められるような手立てが必要である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

がん教育についての教職員の理解と意識啓発を図るために大学教授を講師に招き、学校におけるがん教育の在り方についての研修会を悉皆で開催した。研修会では、令和2年度から先行実施となる中学校に焦点を当て、中学校での事例をもとにした指導内容及び留意点について詳細な解説を依頼した。講演の中で、小学校、中学校、高等学校の系統性も踏まえた説明があったため、参加者はそれぞれの段階における指導の方向性を知ることができた。

学校での取組に対する支援として、小学生向け・中学生向け・高校生向けのリーフレット教材及び教員のための指導参考資料を配付しているが、今後は学習指導要領に位置付けられていない小学校の指導計画等の作成について検討するとともに、先行実施となる令和2年度の中学2年生への支援の方法を検討していくことが必要である。

がん教育は、健康教育の一環として行われるものであり、児童生徒の発達段階に応じて行われるべきものである。そのため、小学校、中学校、高等学校のそれぞれの指導内容及び系統性について、教員を対象とした授業の手法等を具体的に示していきたい。今後、さらにがん教育を身近なものとするため、あらゆる機会を捉え、文部科学省によるガイドラインやモデル校の取組等を県内に周知していく。

令和元年度

がん教育総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

栃木県

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で13人

【内訳】

県医師会代表学校医1名、がん専門医1名、学識経験者（大学教授等）1名、がん経験者2名、モデル校校長2名、モデル校所管市町教育委員会2名、県保健福祉部局1名、県教育委員会3名

令和元年度栃木県がん教育推進連絡協議会委員	
所属及び役職	氏名
県医師会常任理事	浅井 秀実
県立がんセンター放射線治療科長	井上 浩一
宇都宮大学教育学部准教授	久保 元芳
がんサバイバー	磯 由香
あけぼの栃木代表	栗原みどり
下野市立南河内第二中学校長	阿嶋 敬一
足利市立毛野中学校長	柏瀬 和彦
下野市教育委員会事務局学校教育課長	田澤 孝一
足利市教育委員会事務局学校教育課長	須藤 秀幸
県保健福祉部健康増進課長	柏瀬 仁
県教育委員会事務局義務教育課長	柳田 伸二
県教育委員会事務局高校教育課長	中村 千浩
県教育委員会事務局学校安全課長	伊澤 純一

2. 開催時期、検討内容

栃木県がん教育推進連絡協議会（年2回開催）

第1回 令和元年7月3日（水）

協議事項 ・令和元年度栃木県がん教育総合支援事業計画
・外部講師の活用

第2回 令和2年1月17日（金）

協議事項 ・令和元年度栃木県がん教育総合支援事業の取組
及び成果と課題
・がん教育指導参考資料の作成

② 教育委員会としての取組

1. 栃木県がん教育研修会の開催

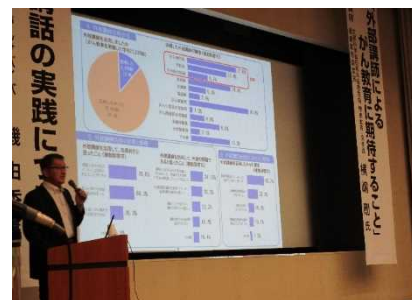
趣 旨 外部講師を活用したがん教育の効果的な進め方及び留意事項など、学校と外部講師が連携したがん教育の取組について学ぶことにより、学校における健康教育の推進を図る。

開催日時 令和元年9月10日（火）14:00～16:30

会 場 栃木県総合教育センター 大講義室

講義内容 講義Ⅰ「外部講師によるがん教育に期待すること」
文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課
健康教育調査官 横嶋 剛 氏
講演Ⅱ「外部講師講話の実践について」
がんサバイバー 磯 由香 氏

参加者数 教職員、医師、がん経験者等 102名



【横嶋 剛 氏による講義の様子】

2. がん教育指導参考資料の作成・配布

モデル校での実践内容や公開授業の指導案等を掲載した「栃木県がん教育実践事例」を作成し、県内の学校等へ配布した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健福祉部健康増進課との連携により、モデル校において、県立がんセンターのがん専門医やがん経験者を講師とした講話を実施することができた。また、県医師会及び県保健福祉部健康増進課の協力により、県のがん教育研修会に、医師とがん経験者の参加を募ることができた。



【栃木県がん教育実践事例】

(2) モデル校における取組

① 下野市立南河内第二中学校

1. 授業研究準備検討会の開催

開催日 令和元年10月1日(火)

会場 下野市立南河内第二中学校会議室

参加者 下野市立南河内第二中学校教職員、指導助言者、市教育委員会担当者、県教育委員会担当者

内容 公開授業及び授業研究会の開催について
公開授業の指導内容について 他

2. がん専門医講話の実施

開催日 令和元年11月13日(水)

会場 下野市立南河内第二中学校体育館

参加者 全生徒、教職員、保護者(希望者)

講師 県立がんセンター統括診療部放射線治療科
科長 井上 浩一 氏

内容 「がんを知ろう」のタイトルでがんの要因や予防について講話をいただいた。



【がん専門医講話の様子】

3. 授業研究会の開催

開催日 令和元年11月19日(火)

会場 下野市立南河内第二中学校多目的スペース、視聴覚室

参加者 下都賀地区小・中学校教職員26名 ほか

展開 公開授業 対象 3年2組33名

教科 保健体育科 保健分野

内容 「生活習慣病の予防」の次の時間に「がんの予防」として実施した。保健体育科教諭と養護教諭のTTにより、ねらいを「がんの予防法について理解し、今後の生活への向き合い方について考えて、説明しよう」として、事前に実施したがん専門医講話の内容にも触れながら、グループワークなどの授業を展開した。

全体会 本校の取組についての説明(養護教諭)

指導講評 宇都宮大学共同教育学部 准教授 久保 元芳 氏



【公開授業の様子】



【指導講評の様子】

4. がん経験者講話の実施

開催日 令和元年11月26日(火)

会場 下野市立南河内第二中学校体育館

参加者 全生徒、教職員、保護者(希望者)

講師 がんサバイバー 磯 由香 氏

内容 「知ってください！がんのこと」のタイトルで、御自身の体験も踏まえ、早期発見の重要性や家族への接し方等について講話をいただいた。



【がん経験者講話の様子】

5. その他の取組(抜粋)



【命の尊さやがんに関する授業(道徳科)】



【がんに関する図書コーナー(図書室)】



【がん予防献立(給食)】

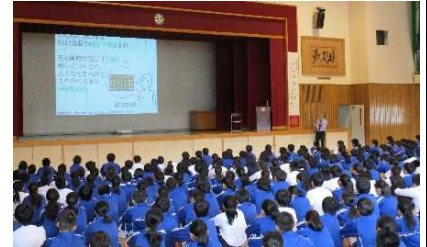
② 足利市立毛野中学校

1. 授業研究準備検討会の開催

開催日 令和元年 10 月 15 日 (火)
 会 場 足利市立毛野中学校校長室
 参加者 足利市立毛野中学校教職員、指導助言者、市教育委員会担当者、安足教育事務所担当者、
 県教育委員会担当者
 内 容 公開授業及び授業研究会の開催について
 公開授業の指導内容について 他

2. がん専門医講話の実施

開催日 令和元年 10 月 16 日 (水)
 会 場 足利市立毛野中学校体育館
 参加者 全生徒、教職員
 講 師 県立がんセンター統括診療部放射線治療科
 科長 井上 浩一 氏
 内 容 「がんを知ろう」のタイトルでがんの要因や予防について
 講話をいただいた。



【がん専門医講話の様子】

3. 授業研究会の開催

開催日 令和元年 11 月 12 日 (火)
 会 場 足利市立毛野中学校多目的ホール、体育館
 参加者 足利地区小・中学校教職員 30 名 ほか
 展 開 全 体 会 開会行事、本日の公開授業について説明
 公開授業 対象 3 年 2 組 33 名
 教科 保健体育科 保健分野
 内容 「生活習慣病の予防」の 2 時間目として、めあてを「がんを予防するため
 にできることを考え、これからの生活に役立てよう」として、事前に実施
 したがん専門医講話の内容にも触れながら、他の教職員へインタビューを
 実施するなどの授業を展開した。

記念講演及び指導講評 宇都宮大学共同教育学部 准教授 久保 元芳 氏



【公開授業の様子】



【記念講演の様子】

4. がん経験者講話の実施

開催日 令和元年 12 月 9 日 (月)
 会 場 足利市立毛野中学校体育館
 参加者 全生徒、教職員、保護者 (希望者)
 講 師 あけぼの栃木 代表 栗原 みどり 氏
 内 容 「今を生きる」のタイトルで、御自身の体験も踏まえ、
 早期発見の重要性や周囲の支えてくれる人の大切さについて講話をいただいた。



【がん経験者講話の様子】

5. その他の取組 (抜粋)



【たばこ等と関連させた発芽実験(理科)】



【がん予防と食品との関連 (家庭科)】



【学校保健委員会の発表】

2. 事業の達成度について

- 栃木県がん対策推進計画（3期計画）で施策を支える基盤の一つとして整備していく「がん教育の推進」を踏まえ、県内の学校に広くがん教育を推進していくに当たり、そのキーパーソンとなる教職員や外部講師等を対象とした研修会を開催することができた。
- モデル校において、授業研究会や外部講師を活用した講話等を関連させた取組を実施するなど、学校教育活動全体で取り組む効果的ながん教育に取り組むことができた。そして、その取組や授業の指導案等を掲載した教員向けの指導資料を作成し、学校・市教育委員会等に配布することにより、本県におけるがん教育の推進を図ることができた。
- モデル校における事業アンケート結果等により、がん教育を実施して下記の成果があった。
 - ・がんに関する正しい知識の習得
 - ・生活習慣を改善しようとする生徒の増加
 - ・がん検診を受診しようとする生徒の増加
 - ・がんに罹患した人への正しい認識の向上
 - ・がんと健康について家族と共有しようとする生徒の増加

【事業アンケート結果（生徒用）抜粋】

項 目	事業前	事業後
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある	94.7%	98.1%
早期発見すれば、がんは治りやすい	94.3%	98.6%
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う	95.7%	97.9%
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う	90.4%	97.6%
がんになっても生活の質を高めることができる	54.1%	76.2%
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う	89.0%	92.3%

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

令和元年度は文部科学省の「がん教育総合支援事業」を活用し、中学校2校をモデル校として実施した。令和2年度は同様に文部科学省の「がん教育総合支援事業」を活用し、令和4年度からの新高等学校学習指導要領の実施に向けて、県立高等学校2校をモデル校として、科目保健における授業と外部講師による講話を関連させた取組等を実施し、学校教育活動全体で取り組む効果的ながん教育を研究するとともに、授業研究会の開催により、先進的な事例として周知を図る。

また、がん教育を推進するに当たって、栃木県の課題である外部講師の活用体制について、県医師会と連携し、学校医が外部講師として対応できる体制の整備を図る。

そして、令和2年度末には、平成30年度から実施しているがん教育総合支援事業の集大成として、モデル校での実践を生かしたがん教育の取組や成果、栃木県としての外部講師の活用法、実践における配慮事項等を掲載した教員・外部講師等の指導者向けの「栃木県のがん教育ガイドライン（仮）」を作成し、学校・市町教育委員会・関係団体等に配布することにより、本県におけるがん教育の推進を図る。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

モデル校以外の学校におけるがん教育の充実を図ることができるよう、モデル校の取組を実践事例として、保健主事研修会やがん教育研修会で周知する。

また、令和2年度作成予定の「栃木県がん教育ガイドライン（仮）」を各学校に配布し、活用促進する。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で13名【内訳：大学院教授2名(医学系研究科1名、保健学研究科1名)、学校医2名(小児科、内科医)、学校歯科医1名、学校薬剤師1名、がん患者団体連絡協議会1名、PTA連合会1名、高等学校PTA連合会1名、県看護協会1名、県立がんセンター医師1名、保健所長1名、県健康福祉部保健予防課がん対策推進室長1名】

- ・事業を推進するにあたって中核をなす組織で、がん教育の推進を図るために作成する「がん教育に関する計画」に対し指導、助言を行うとともに、進め方等について検討する。また、事業の成果の検証等を行う。

2. 開催時期、検討内容

期 日	場 所	内 容
9月4日(水) 19:00～20:30	群馬県庁	がん教育の推進に向けた計画や進め方の検討
2月6日(木) 19:00～20:30	群馬県庁	がん教育に関する計画や取組の検証、次年度の計画や取組についての協議

② 検討委員会について

1. 構成員

全員で15名【内訳：大学教授1名(医学系研究科)、教員4名(小学校1名、中学校2名、高等学校1名)、養護教諭3名(小学校1名、中学校1名、高等学校1名)、指導主事5名(県内各教育事務所)、主査1名(市教育委員会事務局)、県健康福祉部保健予防課がん対策推進室主幹1名】

- ・実践推進校において、がん教育を具体的に展開するための計画及び実践内容等を検討する。

2. 開催時期、検討内容

期 日	場 所	内 容
10月17日(木) 14:40～15:40	東吾妻町立東吾妻中学校 会議室	東吾妻中学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び坂上小学校、県立吾妻中央高等学校における授業実践内容等の事前検討。
12月5日(木) 15:05～16:05	東吾妻町立坂上小学校 会議室	坂上小学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び県立吾妻中央高等学校における授業実践内容等の事前検討。また、東吾妻中学校の事後活動報告。
12月12日(木) 14:40～15:40	群馬県立吾妻中央高等学校 会議室	県立吾妻中央高等学校でのがん教育授業及び取組内容の検討。また、東吾妻町立坂上小学校の事後活動報告及び今後のがん教育推進について協議した。

③ 教育委員会としての取組

6月28日(木)	1 がん教育に関する研修会の開催（藤岡市みかぼみらい館 大ホール） 県内の教職員等を対象に、実践発表及び講義を行った。 【参加人数：565人】 (1)実践発表 「平成30年度におけるがん教育の実践について」 発表者 川場村立川場小学校 教諭 岡田慎史 発表者 川場村立川場中学校 教諭 齋藤由美 養護教諭 松原 恵 発表者 群馬県立沼田高等学校 教諭 真藤克裕 (2)講義 「学校におけるがん教育の実践について」 講師 東海大学体育学部体育学科 教授 森 良一
7月	1 情報収集等関係機関と打合せ 2 実践校事前アンケート実施及び集計
8月	1 関係機関と打合せ、協議会及び検討委員会等開催準備 2 組織づくり（協議会、検討委員会）
9月	1 第1回協議会開催（群馬県庁舎） 2 実践校打合せ等（指導案及び教材等検討）・東吾妻町立東吾妻中学校
10月	1 第1回検討委員会開催（東吾妻町立東吾妻中学校） 2 実践校打合せ等（指導案及び教材等検討）・東吾妻町立坂上小学校
11月	1 実践校打合せ等（指導案及び教材等検討）・群馬県立吾妻中央高等学校
12月	1 第2回検討委員会開催（東吾妻町立坂上小学校） 2 第3回検討委員会開催（群馬県立吾妻中央高等学校）
1月	1 実践校事後アンケート実施及び集計 2 まとめ及び協議会資料作成
1月17日(金)	3 外部講師研修会開催（ぐんま男女共同参画センター） 【参加人数：74人】 講義 「学校におけるがん教育の考え方・進め方について」 講師 新潟医療福祉大学 健康科学部健康スポーツ学科 准教授 杉崎 弘周
1月28日(火)	4 文科省主催 令和元年がん教育研修会・シンポジウム （国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟） 参加者 群馬県ピアサポーター等 14名
2月	1 第2回協議会開催（群馬県庁舎）

④ 保健部局や地域の専門機関等との連携

・がん教育に関する資料の作成

平成25年度から県内の小学校6年生を対象に、保健予防課がん対策推進室が作成した「群馬県の小学校6年生にどうしても知っておいて欲しいこと そうだったのか！がんのこと。」を配布している。がんに関する学習に活用したり、保護者に啓発したりできるよう、県内小学校（小学部）等に配布した。

(2) モデル校における取組

① 小学校 東吾妻町立坂上小学校 第6学年

ア 取組内容

時 期	時 間	内 容
2 学期	体育 (保健領域)	○「病気の予防」 生活習慣など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること、喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となることを理解する。
6 月 21 日(金)	学 校 保 健 委 員 会(拡大)	13:30～14:30 「健康といのちの大切さを考えよう ～がん看護師さんの話から～」 講師 かんわケア大地 ホスピス和が家 柳澤ちぐさ 看護師 講演 「大切な自分 がんにかからないがんに負けない」 対象 全校児童・保護者・教職員
12 月 5 日(木)	道徳の時間	○主 題 「限りある生命を懸命に生きることの尊さ」 内容項目 D-19 生命の尊さ 教材名 「命を見つめて」 生死や生き方に関わる生命の尊厳について学習することにより、自他の生命を尊重する意識や自分自身が力強く、精一杯生きていこうという心を育てる (1)自分にとっての「幸せ」について考える (2)資料「命を見つめて」を範読 (3)自分との関わりで、命について考える ・「余命半年」とお母さんから告知されたときの瞳さんの気持ち ・瞳さんが弁論大会を通して、伝えたかったこと ・瞳さんは、なぜ命の大切さを話したいと考えたのか (4)本時の授業を振り返る ・将来の自分が幸せに生きていくために、自分に向けてのメッセージを書く



② 中学校 東吾妻町立東吾妻中学校 第3学年

ア 取組内容

時 期	時 間	内 容
1 学期	保健体育	○「健康な生活と病気の予防」 健康の保持増進と疾病の予防について理解を深める。
10月17日(木)	保健体育	○生活習慣病とその予防 (内容：がんの予防とがん検診) 外部講師の方とともに、がんが身近な病気であることを理解し、がんの予防法について関心を持ち、正しい知識をもとに適切な行動ができる力を身に付ける。また、より良い生活習慣に理解させるとともに、生徒自身のこれからの生活に生かしていくこと。 (1)前時の学習内容を振り返る (2)我が国におけるがんの現状について確認する (3)がんの仕組みや検診等について理解する【外部講師】 ①がんの発生 ②がんの進行 ③がんの治療法 ④がん検診 (4)グループで意見を共有する 「検診率が低いのはなぜなのか」 (5)学習内容を振り返る 「学習した内容を生かして、自分の家族に今の気持ちを伝え、メッセージを送る」



③ 高等学校 群馬県立吾妻中央高等学校 第1学年

ア 取組内容

時 期	時 間	内 容
1 学期	保健体育	○「現代社会と健康」 生活習慣病を予防し、調和の取れた健康的な生活を実践することが必要であることを理解する。
11月6日(水)	保健体育	○「健康と命の大切さを考え、がんという病気を知ろう ～わたしたちができること～」 外部講師 かんわケア大地 ホスピス和が家 柳澤ちぐさ 看護師 がんの原因やしくみ、日本のがんの現状を理解し、がんの予防やがんの治療について考える。 (1)がんとは ・どのくらいの人のがんになる ・がんができる仕組み (2)がんは予防できるの ・生活習慣 ・検診



		(3)がんの治療ってどんなことがあるの ・がんの治療方法など (4)みんなができること ・私の経験から  
12月12日(木)	保健体育	○「がん和健康～がんとともに生きる社会～」 内容:がんの治療における緩和ケア がん患者の生活の質 がん患者への理解と共生 既習の「生活の質(QOL)」を用いて、「緩和ケア」について学習し、治療中・治療後のQOLを大切にするすることで、がんになっても「その人らしく、充実した生き方」ができることを理解する。また、がん患者への理解を深め、互いに支え合い、ともに暮らしていくことができる社会環境づくりが重要であることを理解する。 ・「がん」について、関心をもち、学習活動にすすんで取り組もうとすることができるようにする。 ・「がん」について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 ・「がん」について、課題解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活や社会の関わりを理解することができるようにする。 (1)がんについての復習 (2)本時の学習内容説明 「がんと共に生きる社会について」 (3)緩和ケアについて (4)がん患者の思いを知る (5)グループワーク 「私たちができることとは」 ・「その人らしく、充実した生き方」ができるようにするために、私たちができることを考える (6)本時の振り返り    

2. 事業の達成度について

① 東吾妻町立東吾妻小学校 第6学年 児童アンケートから

【がんの学習について】

(n=10)

(n=10)

質 問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	90	10	0	0	90	10	0	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	100	0	0	0	100	0	0	0

質 問		事前 (%)		事後 (%)	
		正しい	謝り	正しい	謝り
a	(ア) がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	80	20	90	10
b	(イ) がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなり、命を失ったりすることがある。	100	0	100	0
c	(ウ) がんは日本人の死因の第2位である。	60	40	60	40
d	(エ) たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	100	0	90	10
e	(オ) 早期発見すれば、がんは治りやすい。	80	20	100	0
f	(カ) 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	0	100	0	100
g	(ク) がんの治療法には手術治療しかない。	10	90	0	100
h	(キ) がんの痛みは我慢するしかない。	50	50	30	70

質 問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ア) 自分はがんにならないと思う。	10	60	10	20	10	30	20	40
b	(エ) 将来、たばこは吸わないでいようと思う。	90	0	0	10	100	0	0	0
c	(エ) 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	70	30	0	0	70	30	0	0
d	(オ) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	80	20	0	0	70	0	30	0
e	(カ) がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	50	10	20	20	20	30	20	30
f	(ク) がんになっても生活の質を高めることができる。	10	40	20	30	30	50	0	20
g	(ケ) がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい。	90	0	10	0	90	0	10	0
h	(コ) がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	50	30	10	10	80	10	10	0
i	(コ) 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	100	0	0	0	100	0	0	0
j	(コ) 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	60	40	0	0	90	10	0	0

② 東吾妻町立東吾妻中学校 第3学年 生徒アンケートから

【がんの学習について】

(n=95)

(n=101)

質 問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	83.2	14.7	0	2.1	93.1	6.9	0	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	84.2	15.8	0	0	92.1	6.9	1.0	0

質 問		事前 (%)		事後 (%)	
		正しい	謝り	正しい	謝り
a	(ア) がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	97.9	2.1	100	0
b	(イ) がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなり、命を失ったりすることがある。	98.9	1.1	92.1	7.9
c	(ウ) がんは日本人の死因の第2位である。	50.5	49.5	33.7	66.3
d	(エ) たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動することなどによって、予防できるがんもある。	96.8	3.2	100	0
e	(オ) 早期発見すれば、がんは治りやすい。	94.7	5.3	97.0	3.0
f	(オ) 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	5.3	94.7	3.0	97.0
g	(カ) がんの治療法には手術治療しかない。	11.6	88.4	4.0	96.0
h	(キ) がんの痛みは我慢するしかない。	6.3	93.7	2.0	98.0

質 問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ア) 自分はがんにならないと思う。	10.0	27.4	25.3	36.8	4.0	25.7	26.7	43.6
b	(エ) 将来、たばこは吸わないでいようと思う。	89.5	6.3	4.2	0	93.1	5.0	0	2.0
c	(エ) 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	68.4	28.4	2.1	1.1	74.3	24.8	1.0	0
d	(オ) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	76.8	20.0	2.1	1.1	72.3	23.8	4.0	0
e	(カ) がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	32.6	27.4	21.1	18.9	7.9	31.7	21.8	38.6
f	(ク) がんになっても生活の質を高めることができる。	38.9	27.4	20.0	13.7	38.6	37.6	16.8	6.9
g	(ケ) がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい。	78.9	20.0	1.1	0	84.2	14.9	1.0	0
h	(コ) がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	61.1	25.3	6.3	6.3	63.4	26.7	6.9	3.0
i	(コ) 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	90.5	7.4	1.1	1.1	97.0	3.0	0	0
j	(コ) 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	84.2	9.5	5.3	1.1	87.1	8.9	2.0	2.0

③ 群馬県立吾妻中央高等学校 第1学年 生徒アンケートから

【がんの学習について】

(n=167)

(n=168)

質 問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	88.0	12.0	0	0	93.5	6.5	0	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	84.4	15.0	0.6	0	90.5	8.9	0	0.6

質 問		事前 (%)		事後 (%)	
		正しい	謝り	正しい	謝り
a	(ア) がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	95.8	4.2	98.8	1.2
b	(イ) がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなり、命を失ったりすることがある。	98.8	1.2	91.7	8.3
c	(ウ) がんは日本人の死因の第2位である。	49.1	50.9	25.6	74.4
d	(エ) たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動することなどによって、予防できるがんもある。	94.0	6.0	98.2	1.8
e	(オ) 早期発見すれば、がんは治りやすい。	98.2	1.8	100	0

f	(オ) 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	0.6	98.8	2.4	97.6
g	(カ) がんの治療法には手術治療しかない。	6.0	94.0	3.0	97.0
h	(キ) がんの痛みは我慢するしかない。	9.0	91.0	1.2	98.8

質 問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ア) 自分はがんにならないと思う。	2.4	24.0	31.1	41.9	2.4	14.9	29.8	53.0
b	(エ) 将来、たばこは吸わないでいようと思う。	88.0	9.6	1.2	1.2	92.3	6.0	0.6	1.2
c	(エ) 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	52.1	41.9	4.2	1.8	60.7	34.5	3.6	1.2
d	(オ) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	59.3	34.7	4.2	1.2	70.2	26.8	1.8	1.2
e	(カ) がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	16.8	34.1	29.3	19.8	10.7	16.7	33.9	38.7
f	(ク) がんになっても生活の質を高めることができる。	20.4	41.3	26.3	11.4	50.0	30.4	11.3	7.7
g	(ケ) がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	61.1	37.1	0.6	0.6	76.8	22.6	0.6	0
h	(コ) がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	40.7	41.3	13.2	4.8	52.4	35.1	10.1	2.4
i	(コ) 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	89.8	9.6	0	0.6	92.3	6.0	1.2	0.6
j	(コ) 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	79.6	18.6	0.6	1.2	82.7	15.5	1.8	0

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

（成果）

- ・児童生徒：がんに関する理解が深まった。がんについての認識の変化が見られた。
- ・教職員等：がん教育について必要性を感じたり、認識に変化が見られたりした。また、文部科学省から示されたスライド教材を活用し、各学校での授業の手立てを示すことができた。
- ・外部講師や各関係機関との連携を通して、がん教育の広がりや深まりが見られた。

（課題）

- ・指導教材及び資料の作成及び活用方法検討と方針について。
- ・外部講師の確保、外部講師リストの作成、外部講師研修会開催及び外部講師活用整備体制の構築
- ・指導主事、教職員などへの研修会等によるがん教育に関する具体的な取組の継続した啓発

（令和2年度の取組について）※国費での取組

- ・教職員対象のがん教育研修会において、講義及び実践校での取組を発表
- ・外部講師の確保及び外部講師リスト作成において、保健部局と連携した整備体制の構築
- ・がん教育における外部講師対象の研修会開催

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・教職員、外部講師等を対象としたがん教育に関する研修会の継続開催及び内容の充実
- ・文部科学省から示されている教材の有効な活用方法を検討したり、保健部局と連携し外部講師を整備したりする。
- ・がん教育を推進していくためのガイドラインに反映させたり、取組事例などの紹介をしたりし、がん教育についての授業展開事例集等の情報提供。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全体で21人（内訳：大学准教授1人、がん専門医1人、医師会1人、がん経験者1人、校長3人、市町村教育委員会指導主事2人、教諭3人、養護教諭4人、県保健医療部1人、県教育局4人）

2. 開催時期、検討内容

- ・第1回協議会 令和元年7月16日（火）（がんの教育の推進に向けた計画の検討）
- ・第2回協議会 令和2年1月17日（金）（がんの教育に関する計画の検証）

② 教育委員会としての取組

○「がん教育指導者研修会」（教職員・外部指導者を対象）

○校種別授業研究会

- ・小学校授業研究会（小学校体育教員、養護教諭、特別支援学校教員等を対象）
- ・中学校授業研究会（中学校保健体育科教員、養護教諭、特別支援学校教員等を対象）
- ・高等学校授業研究会（高等学校保健体育科教員、養護教諭、特別支援学校教員等を対象）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○保健医療部疾病対策課が実施している「出前講座」においての連携

○埼玉県がん教育外部指導者研修会の開催

医療関係者、がん患者団体、がん経験者等を対象に、外部講師によるがん教育の実施にあたっての留意事項及び効果的な進め方等についての研修会を行った。

○埼玉医科大学総合医療センターによる「SMCがん教育セミナー」の後援

教職員、医療関係者を対象とし、外部指導者の授業実践の紹介や、埼玉県がん教育授業研究会の実践発表の紹介、グループワーク等を行った。

(2) モデル校における取組

○がん教育授業研究会について

学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、小学校、中学校、高等学校において「がん教育授業研究会」を開催し、発達の段階に応じた適切な指導方法を検討し、授業モデルの普及と指導参考資料の作成を行った。

・小学校授業研究会

児童に「がんについて正しく理解することができる」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができる」という2点について、教科等横断的な視点から、体育科保健領域「病気の予防」と、特別活動を通して身に付けさせる授業計画で行った。さらに、事後指導では、が

ん専門医を外部講師として招き、自他の健康と命の大切さについて学ばせることができた。

研究協議では、「がんに関する指導の充実を図るための工夫について」をテーマに協議を行った。

- | | |
|----------|--|
| (1) 日 時 | 令和元年10月30日(水) |
| (2) 参加者 | 小学校教職員(教諭、養護教諭、保健主事等)、
県立特別支援学校教職員及び指導主事 |
| (3) 会 場 | 川越市立霞ヶ関小学校 |
| (4) 授業者 | 山中 雄一 教諭、嶋田 恵美子 教諭、加藤 佳代 養護教諭 |
| (5) 題 材 | 特別活動 第6学年 「健康と命の大切さ」
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成 |
| (6) 参加人数 | 小学校教職員、特別支援学校教職員、指導主事、学生等154人 |



資料を活用した教師による説話



調べ学習の資料

・中学校授業研究会

令和3年度の新学習指導要領全面実施に向けて、第2学年で本単元を扱った。がんについて正しく理解することや、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにするため、自分の考えを仲間の前で発表したり、他者の考えを聞いて共感する場面を設定することによって、知識を深めることができた。事後指導として、自校の学校総合支援員(がん経験者)からの話を聞くことで、がん患者への理解と共生について考えることができた。

研究協議では、「がんに関する指導の充実を図るための工夫について」をテーマに協議を行った。

- | | |
|-----------|---|
| (1) 日 時 | 令和元年10月16日(水) |
| (2) 参加者 | 中学校教職員
(保健体育科、養護教諭、保健主事等)、
県立特別支援学校教職員、及び指導主事 |
| (3) 会 場 | 深谷市立川本中学校 |
| (4) 授業者 | 石山 絵理 教諭
朽原 若菜 養護教諭 |
| (5) 単 元 | 保健分野 第2学年「(4) 健康な生活と疾病の予防」
イ 生活行動・生活習慣と健康 |
| (6) 準備検討会 | 令和元年10月9日(水)(授業検討委員会中学校部会) |
| (7) 参加人数 | 中学校教職員、特別支援学校教職員、指導主事、学生等191人 |



スライドを活用した説明の様子



調べ学習の資料

・ 高等学校授業研究会

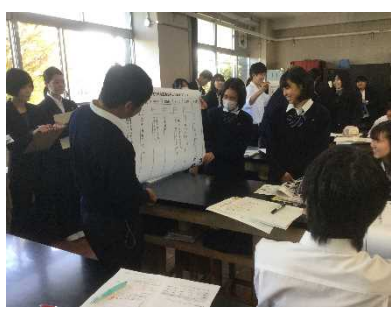
2時間扱いでがんに関する内容を扱った。1時間目は、がんに関する基礎的・基本的な知識を一斉教授型の授業スタイルで習得させた。2時間目は、1時間目に学習した内容を踏まえ、「がんは誰でもかかる可能性がある」ということをベースに、それぞれのライフステージに合わせた地域の保健所や保健センターの活動と資料を用いて、現在と未来の自分に向けたアドバイスと今後の行動について考えさせることができた。

研究協議では、「がんに関する指導の充実を図るための工夫について」をテーマに協議を行った。

- | | |
|----------|---|
| (1) 日 時 | 令和元年11月6日(水) |
| (2) 参加者 | 高等学校・特別支援学校教職員
(保健体育科、養護教諭、保健主事等) |
| (3) 会 場 | 県立志木高等学校 |
| (4) 授業者 | 廣瀬 恵美 教諭 |
| (5) 単 元 | 科目保健 第1学年 (1)「現代社会と健康」
イ 健康の保持増進と疾病の予防 |
| (6) 参加人数 | 高等学校教職員、指導主事等、学生等 102人 |



スライドを活用した説明



グループワークの様子



2. 事業の達成度について

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について理解を深め、県内への啓発を図ることができた。

(1) 「がん教育」指導者研修会

ア がんに関する指導に携わる教職員のがんに対する正しい知識と意識の向上、及び学校におけるがんに関する指導の充実を図るための研修会を実施したことで、がん教育の必要性が理解され、実践例や指導教材等の普及啓発ができた。

イ 行政説明の中で、学校におけるがんに関する内容の教育課程への位置付け例を挙げ、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。

ウ 東京女子医科大学教授 林 和彦 氏による講演『今、学校で始まる「がん教育」』により、学校におけるがん教育の考え方、進め方について理解を深めることができた。

(2) 授業研究会について

ア 授業検討委員会では、発達の段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、授業研究会で効果的な指導方法について提案できた。また、充実した研究協議を行うことができた。

イ モデル校として、新学習指導要領の全面実施に向けてがん教育を進めることができるよう、保健体育の保健分野、科目保健で授業案を検討することができた。その結果、各学校での実践の参考となる指導案及びワークシート等の指導資料を作成することができた。

ウ 文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。



研究協議会の様子

(3) 外部機関・外部講師との連携について

ア 医療機関との連携で、埼玉医科大学総合医療センター 教授 儀賀理暁 氏が実施する、「がん教育セミナー」では、医療関係者と教育関係者が共に研修を行ったことで、各々の取組内容を情報共有でき、効果的な指導法や連携の仕方を考える機会となった。

イ 埼玉県がん教育外部指導者研修会では、学校におけるがん教育について、「行政説明」「実践発表」等の研修を行うことで、がん教育の概要について知っていただく機会となった。

ウ 授業研究会の中で、がん経験者、がん専門医を外部講師として招き、授業を行ったことで、児童生徒の心に響く、効果的ながん教育を推進することができた。



がん教育外部指導者研修会

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（1）各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア 平成29年3月に小・中学校の学習指導要領、平成30年3月に高等学校学習指導要領が告示され、「がんについても取り扱うものとする」と明記された。同解説においても、がんに関する内容が明確に示されたことから、全面実施、年次進行実施に向けてがん教育をすべての学校で指導していくことを周知する。

イ がん教育の目標を達成するためには、保健体育の保健の学習では、がんに対する正しい知識を身に付けさせ、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について実施していくことが必要である。体育・保健体育の保健の学習を中核に、他の教育活動と連携した指導について、モデルとなるような取組を継続して提案していくことが課題である。

ウ 指導方法については、小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成を研究していく。

（2）外部講師の活用について

ア 保健医療部疾病対策課のがんに関する「出前講座」は、引き続き連携を取りながら協力していく。

イ 「保健」「道徳」「特別活動」等の授業で活用したい外部講師の選定・依頼・派遣については、県保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを進めている。次年度も外部講師を対象とした研修会を開催するとともに、出前講座や授業研究会への見学研修を実施し、外部講師のリストを作成していく。

ウ 外部講師の育成のため、学校教職員対象の「がん教育指導者研修会」の参加を促していく。

（3）研修会等の充実と普及・推進

ア 児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護教諭のみならず、保健体育科教諭等への積極的参加を呼びかけていく必要がある。参考となる指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ がん教育の取組を、県内各地に偏りなく各学校で実践していくために、モデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成
- ・外部講師の育成、外部講師の派遣体制の整備
- ・モデル校での授業実践例の周知とがん教育の確実な実践。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

1. 中川 恵一（東京大学医学部附属病院放射線科准教授）
 2. 片山 佳代子（神奈川県立がんセンター臨床研究所主任研究員）
 3. 助友 裕子（日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科教授）
 4. 松沢 千恵子（神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表）
 5. 長谷川 一男（神奈川県がん患者団体連合会理事）
 6. 石井 貴士（公益社団法人神奈川県医師会理事）【外科・消化器科・内科】
 7. 川田 剛裕（公益社団法人神奈川県医師会理事）【内科・糖尿病内科・循環器内科・小児科・皮膚科】
 8. 山口 信義（神奈川県PTA協議会 副会長）
 9. 市川 嘉裕（神奈川県中学校体育連盟研究部会会長）
 10. 櫻庭 純子（神奈川県学校保健連合会養護教諭部会部会長）
 11. 松尾 聖司（神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課長）
 12. 宮村 進一（神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長）
 13. 濱 卓至（神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課長）
 14. 幸田 隆（神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課長）
- 〈連携組織〉神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課

2. 開催時期、検討内容

○令和元年度第1回神奈川県がん教育協議会（神奈川県総合医療会館）

(1) 報告事項

- ア 神奈川県におけるがん教育の取組について
- イ 平成30年度 がん教育総合支援事業 事業成果報告について
- ウ 平成30年度 がん教育実施状況について
- エ がん教育DVD活用状況調査結果について

(2) 協議事項

- ア 令和元年度 がん教育総合支援事業 事業計画について
- イ 令和元年度 がん教育指導者研修講座開催要項について
- ウ 令和元年度 神奈川県外部講師を活用したがん教育授業実施校について
- エ 神奈川県がん教育リテラシー調査について
- オ 外部講師の活用について
- カ がんを知ろう！～指導用補助資料～について

○令和元年度第2回神奈川県がん教育協議会（神奈川県総合医療会館）

(1) 令和元年度神奈川県がん教育の取組について

- ア 文部科学省がん教育総合支援事業取組経過について

- イ 外部講師のリスト化について
- (2) がん教育に関するリテラシー調査について
- (3) 文部科学省による「平成 30 年度におけるがん教育実施状況調査」結果について
- (4) 令和 2 年がん教育の取組について
 - ア 指導者研修講座について
 - イ 外部講師を活用したがん教育授業について
 - ウ 外部講師のリスト及び活用方法について
- (5) その他

② 教育委員会としての取組

○令和元年度 外部講師を活用したがん教育授業

1. 南足柄市立岡本小学校
実施日：令和元年 11 月 7 日（木）
講師：小田原市立病院がん検診科 小山 隆史 氏
2. 県立二宮高等学校
実施日：令和元年 11 月 14 日（木）
講師：神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」 松沢 千恵子 氏
3. 相模原市立東林中学校
実施日：令和元年 11 月 22 日（水）
講師：北里大学病院集学的がん診療センター 佐々木 治一郎 氏
北里大学病院がんサロン運営委員 福井 砂夕里 氏
4. 横浜市立すすき野中学校
実施日：令和元年 12 月 13 日（金）
講師：乳がん体験者の会「マリアリボン」共同代表 岩澤 玉青 氏
5. 県立金井高等学校
実施日：令和元年 12 月 16 日（月）
講師：藤沢市民病院呼吸器内科 西川 正憲 氏

○研修講座

令和元年度第 1 回神奈川県がん教育指導者研修講座（神奈川県総合医療会館）

令和元年 6 月 27 日（木）参加人数 103 名

令和元年度第 2 回神奈川県がん教育指導者研修講座（神奈川県総合医療会館）

令和元年 12 月 6 日（金）参加人数 69 名

○教材や指導参考資料の作成

1. 神奈川県がん教育教材「がんを知ろう！（R 元年度版）」改訂
2. 指導用補助資料（R 元年度版）改訂
3. がん教育教材 DVD の作成

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課と連携して、がん教育教材「がんを知ろう！」、指導用補助資料の改訂を行った。また、がん診療連携拠点病院の外部講師リストアップについても、18 病院から 94 名の医師を外部講師としてリストアップした。

(2) モデル校における取組

実施校	実施日時	授業形態	児童生徒	関係者 (教職員等)
南足柄市立岡本小学校	令和元年 11 月 7 日	保健	児童 72	29
県立二宮高等学校	令和元年 11 月 14 日	保健	生徒 40	15
相模原市立東林中学校	令和元年 11 月 22 日	保健	生徒 139	17
横浜市立すすき野中学校	令和元年 12 月 13 日	保健	生徒 251	27
県立金井高等学校	令和元年 12 月 16 日	総合学習	生徒 360	20

県立金井高等学校



横浜市立すすき野中学校



○取組テーマ

- ・がんについて正しく理解することができるようにする。
- ・健康と命の大切さについて、主体的に考えることができるようにする。

○具体的な内容

* 以下のア～ケの中から各校で選択し実施

- | | |
|----------------|----------------|
| ア がんとは（がんの要因） | カ がんの治療法 |
| イ がんの種類とその経過 | キ がん治療における緩和ケア |
| ウ 日本におけるがんの状況 | ク がん患者の生活の質 |
| エ がんの予防 | ケ がん患者への理解と共生 |
| オ がんの早期発見・がん検診 | |

(3) その他

特になし

2. 事業の達成度について

○取組における成果及び成果の普及

1. がん教育協議会の開催

- ・神奈川県でのがん教育の現状について関連部署等と共有し、国の最新の動向や先進事例等を把握するとともに、課題を明確にし、県の取組に活かした。

2. がん教育指導者研修講座の開催

- ・学校教職員ががん教育の必要性を理解するとともに、がん教育の指導法を高められた。また、外部講師活用についてその意義を理解できた。
- ・外部講師等が指導法を高めることができた。

3. 外部講師を活用したがん教育授業の実施

- ・モデル授業として関係者が参観をしたり、研究協議にて課題や情報を共有することにより、外部講師活用の意義や必要性が普及できた。
- ・外部講師等が指導法を高めることができた。

4. がん教育における指導資料等をまとめたDVDの作成

- ・がん教育で活用できるDVDを学校等へ配付することにより、がん教育の普及や授業の補填を図れた。
- ・外部講師の授業を広くに発信できた。

5. 各種の会議等で「がん教育」の必要性・研究授業の実施について説明

- ・保健体育関係会議や学校保健関係会議等でがん教育の普及推進を図った。前述3の外部講師を活用したがん教育授業を研究授業対象とするとともに、研究協議でも情報発信した。また、研修会や勉強会（がん教育セミナー）においても情報発信・共有に努めた。

○児童生徒へのアンケートにおいて、大きな変化が見られた主な項目

- 1) 【a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ】、【b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ】では、「そう思う」という回答が約20%増加した。
- 3) 【c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う】、【d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う】では、「そう思う」という回答が約20%増加し、生活習慣や検診に対する意識の変化が見られた。
【f がんになっても生活の質を高めることができる】では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答が約20%増加するなど、がんに対する考え方にも変化が見られた。

○学校の教職員のアンケートでは、事前の準備の必要性についての御意見が主にあげられた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○今後の課題

1. 教員の指導力の向上

- ・新学習指導要領の移行期間であり、新教科書の発行に向け、保健体育の授業における指導力向上が必要である。

2. 保健体育科教諭のがん教育への関わりを推進

- ・保健体育の授業は基より、保健体育の授業以外で学習を深めたり関連させたりする意味でも、保健体育科教諭が中心になり、校内におけるがん教育を推進させる。
- ・保健体育科教諭の研修会出席を増やし、がん教育の意義を広める。

3. 外部講師を活用したがん教育の普及推進

- ・各校で外部講師を活用したがん教育が普及促進するよう、その依頼先や相談窓口を周知する必要がある。
- ・がん教育の内容や目的に合わせた外部講師の選定。

4. 外部講師のリスト化推進

- ・医師等の医療関係者やがん経験者の中から、外部講師としてがん教育を実施できる人材の発掘を継続する。
- ・がん教育の内容や目的に合わせ、外部講師ができること、できないことなどの授業内容の整理が必要である。

5. 外部講師の研修体制の確立

- ・外部講師としてがん教育を実施する者に対して、その研修体制を構築していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

特になし

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

ア 協議会について

① 構成員

全員で 11 人

内訳：がん専門医 1 人、医師 1 人、大学教授 1 人、県福祉部局 1 人、がん経験者 1 人、校長 1 人、教育委員会 5 人

② 開催時期、検討内容

○ がんの教育推進協議会の設置（年 2 回開催）

【第 1 回推進協議会】（がんの教育の推進に向けた事業計画の検討）

令和元年 8 月 7 日（水）

【第 2 回推進協議会】（がんの教育に関する事業の評価）

令和 2 年 1 月 31 日（金）

イ 県教育委員会としての取組

① 「がん教育研修会」の開催

日時・会場：令和元年 11 月 27 日（水） 13:00～16:40 県立生涯学習推進センター

令和元年 11 月 28 日（木） 13:00～16:40 長岡リリックホール

参加人数：教職員他合計 219 人

（内訳：管理職 5 人、教諭 49 人、養護教諭 142 人、指導主事 10 人、医療関係 6 人、患者の会 1 人、大学関係 1 人、行政 5 人）

内容：前年度の授業指定校の実践発表、専門医による講演「がん治療やがん教育に期待すること」

② 保健部局や地域の専門機関等との連携

がんの教育推進協議会を開催するにあたり、医師会、県福祉保健部の担当者と連携しながら構成員を決定した。外部講師派遣についても、県福祉保健部や患者の会と連携し、授業指定校へ外部講師を派遣することができた。

③ DVD の発行

がん経験者である現役のプロサッカー選手からのメッセージ動画と、授業指定校による実践資料を DVD にまとめ、県内の全公立学校及び市町村教育委員会等の関係機関へ配付した。

ウ 授業指定校における取組

① 授業指定校の授業実践

県内 3 地区の小中学校各 1 校と、県立高等学校 3 校を授業指定校とし、授業実践を行った。

【上越市立上雲寺小学校・村上市立村上小学校・長岡市立十日町小学校】

○ 単元名「病気の予防」（6 年生体育科：保健領域）

○ 指導の要点

本単元では、病気の予防について正しく理解するとともに、正しい知識を活かして自分自身の健康を維持していく資質・能力を身につけさせたい。がん教育では、がんが身近な病気であり怖い病気ではないことを理解することや、自ら健康を意識して生活するために、病気の予防方法を主体的に学ぶことができるよう、児童が個人で考える場や友達と考えを共有し合う場を設定する。また、身近にがん患者がいる児童生徒やがん患者の人権に配慮して指導する。

○ 本時のねらい、学習内容

- ・知っている病気の中で「がん」を取り上げ、自分ができる予防方法を生活と結びつけて考える。
- ・既習の「飲酒・喫煙の害」や望ましい生活について、将来の自分の生活習慣と結びつけて考える。
- ・どうしてがんになるのか、外部講師（専門医）から直接説明を聞く。

【上越市立雄志中学校・村上市立朝日中学校・長岡市立寺泊中学校】

○ 単元名「健康な生活と病気の予防（生活習慣病の予防）」（３年生保健体育科：保健分野）

○ 指導の要点

本単元では、生活習慣病が、心身に負担となる生活行動を続けることによって引き起こされる病気であり、適切な生活習慣へと改善することで予防できることを学習する。中学生年代でもかかる可能性があり、また、予防することもできる「身近な病気」だということである。そのことから、生活習慣病を自分のこととして捉え、自分の生活習慣が適正なものかを振り返り、健康のためにはどうすべきかを深く考えさせていきたい。

○ 本時のねらい、学習内容

- ・「がん」を予防するためには、どのような生活習慣を身に付ければよいか、中学３年生として望ましい生活行動につなげる意欲を高める。
- ・がんの疾病概念やがん検診の受診率等をもとに、予防やがん検診の意義を考え、望ましい生活習慣や早期発見の大切さを説明できる。
- ・自己の生活を振り返り、がんの予防について仲間の意見を参考にしながら自分なりの考えを深めることができる。

【県立長岡高等学校・県立堀之内高等学校・県立新潟向陽高等学校】

○ 単元名「生活習慣病などの予防と回復」（１・２年生保健体育科：保健分野）

○ 指導の要点

国民の２人に１人がかかると推測されるがんは、重要な健康課題となっており、健康に関する国民の基礎的教養として身につけておくべきものとなりつつある。しかし、多くの生徒が「がん」をどこか遠い存在、今の自分とは関係の薄い存在としてとらえている。生徒の見方・考え方を働かせるには「がん」を自分事としてとらえ、自分の生活と関連づけて考えさせる工夫が必要である。

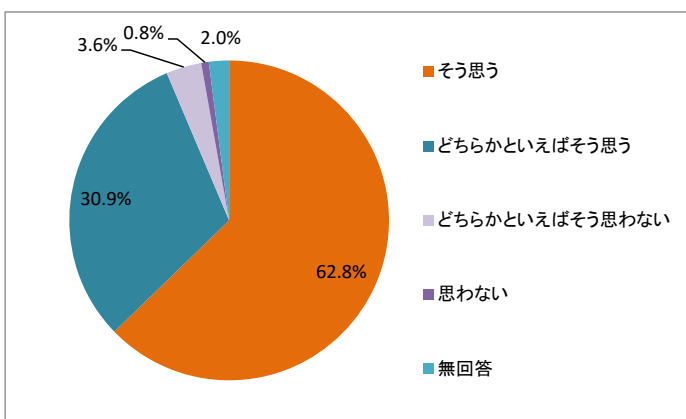
○ 本時のねらい、学習内容

- ・生活習慣病などの予防と回復について、個人だけでなく社会生活について総合的に理解することができる。
- ・生活習慣病などの予防と回復について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。
- ・生活習慣病などの予防と回復についての学習に、主体的に取り組もうとすることができる。

【授業前後の児童生徒のアンケート結果より】

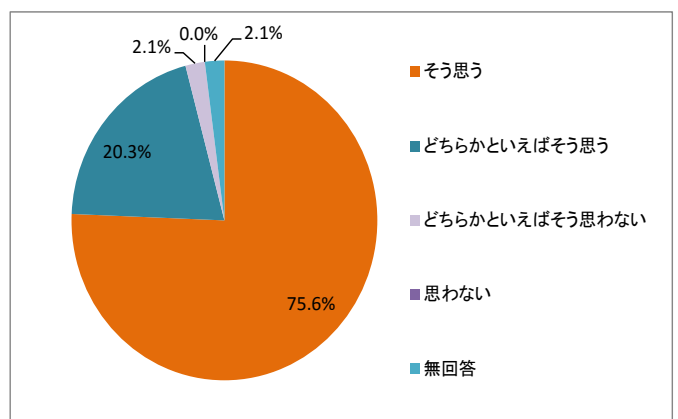
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

	(単位：人)
そう思う	246
どちらかといえばそう思う	121
どちらかといえばそう思わない	14
思わない	3
無回答	8



c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

	(単位：人)
そう思う	295
どちらかといえばそう思う	79
どちらかといえばそう思わない	8
思わない	0
無回答	8



2. 事業の達成度について

- がん教育研修会では、全県から 219 人の参加があった。教職員だけでなく、医療関係者や患者の会、行政担当者と、がん教育に携わる多くの関係者が参加したことは、今後の県内のがん教育推進に大きな影響を与えるものと思う。

はじめに、前年度の授業指定校から実践発表を行った。次に、講演を行い、講師には県立がんセンター新潟病院長の佐藤信昭先生、長岡中央総合病院長の富所隆先生からご協力いただいた。がんの現状や予防教育の重要性についてご講演をいただいた。

参加者の 99.5%が、研修会の満足度について肯定的評価であった。

【参加者アンケート結果より】

- ・ 2 人に 1 人はがんになること、また、早期発見すれば 9 割は治ること、がん細胞の働きなどがんの知識を確認できました。小学校の保健、6 年生の生活習慣病の予防の授業で取り入れていきたいです。
- ・ 詳細なデータや現状における課題が分かりました。大変参考になる内容でした。校内職員へも資料を基に伝達します。今後の指導に向けて考え、実践への足がかりになると思います。
- ・ 昨年親族ががんで亡くなっていて、ときどき辛くなるときもありました。先生の話聞いて、配慮することがどういうことか分かったような気がします。身近な病気であるからこそ、生きることへの力や知識について、がん教育を通じて子ども達へ伝えることができると感じました。

- 授業指定校における取組については、児童生徒、保護者のがんへの関心が高まる中で、がん教育を行ったことにより、教職員、児童生徒が、がんへの正しい知識と命の大切さをより深く理解することができた。特に、授業を通し、児童生徒が自分の生活習慣を自分の生き方と関連づけて真剣に考えたり、家族への思いやりについて考えたりすることができた。

【授業前後の児童生徒のアンケート結果より】

- ・ がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。 88.0% → 91.5%
- ・ がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。 59.4% → 71.3%
- ・ がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。 72.5% → 82.3%
- ・ がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。 46.7% → 59.7%

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- がん教育についての教職員の理解と意識啓発を図るために、文部科学省から示された教材や授業指定校の取組事例等を、県内に周知する活動を継続していく必要がある。令和 2 年度も、文部科学省「がん教育総合支援事業」を受託し、授業指定校での授業実践を実施する。（研修会も計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のために中止とした）
- 外部講師のリスト化を試みたが、医療機関や市町村に行ったアンケートの回答率が低調であったこと、リストの公開に難色を示す機関があったことなどから、リスト化を進めることは難しいと考える。また、リスト化が進んでも、金銭的な問題に加え、日程調整の煩雑さ等が学校現場には負担となり、積極的な活用が見込めないことから、授業で使える「専門医やがん経験者の映像資料」を DVD 等に収録し、全県に配付する活動にシフトすることを考えていきたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 教職員を対象に、がん教育についての理解を深めるため、研修会を開催した。令和元年度は、県内 2 か所での研修会の開催であったため、参加には限りがあることや研修会の参加者から、「がん教育を行う意義を全職員で共有する必要がある、管理職や教員への研修をしてほしい。」「配慮すべき点が多く、実際にできるかどうかまだ不安である。」等の慎重な意見もあったため、今後は地域ごと（県内 3 か所）に研修会を開催し、県内の教職員へ理解をより深めることを検討する。

また、がん経験者からは外部講師のための研修会を開催してほしいとの要望があるため、今後は福祉保健部との連携を図りながら、検討していく。

1. 事業の具体的内容について

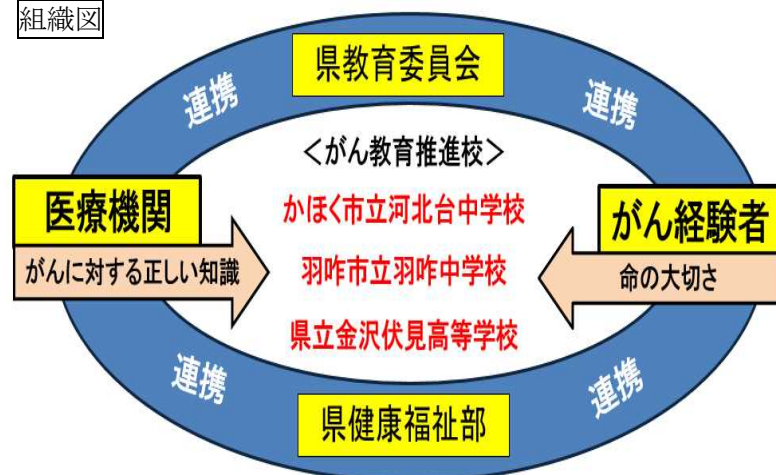
(1) 自治体における取組

① 協議会について

(ア) 推進委員 (計15名)

所 属	職 名	氏 名
金沢大学がん進展制御研究所	教 授	矢野 聖二
石川県済生会金沢病院	副 院 長	龍澤 泰彦
小松市民病院	院 長	村上 真也
金沢医科大学病院	看護師長	我妻 孝則
萌の会	代 表	和田真由美
はなうめ	ピアサポーター	富士登寧子
石川県立金沢伏見高等学校	教 諭	荒川 勝則
かほく市立河北台中学校	教 諭	英 雄輔
羽咋市立羽咋中学校	教 諭	平戸 和宏
石川県健康福祉部健康推進課	課 長	相川 広一
	主 幹	西出 恵里
石川県教育委員会事務局保健体育課	課 長	村戸 徹
	課長補佐	奥原 真弥
	指導主事	岩岸 鋭二
	指導主事	林 美子

組織図



(イ) 開催時期、検討内容

- 第1回連絡協議会（於：県庁）7月3日
 - ・事業趣旨の共通理解及びがん教育の推進に向けた計画の確認、日程調整等
- 推進協議会（於：各推進校）9～10月
 - ・がんの教育に関する保健教育等の指導案作成
 - ・公開授業の日程及び概要について打合せ
 - ※学校の実情や生徒の実態等に合わせ指導案検討の実施
 - ※推進校と講師によるメール等を活用した打合せ
- 「がん教育講習会」の実施（於：地場産業振興センター）1月20日
 - ・中学校、高等学校より各1名、医療関係者、がん経験者等 約100名
 - ・がん教育の推進に向けた行政説明・推進校の実践報告
 - ・中央講師によるがん教育についての講演
- 第2回連絡協議会（於：県庁）1月24日
 - ・推進校からの実践報告及び県教委で取りまとめた報告等の実施
 - ・次年度の取組や外部講師リスト等の検討

② 教育委員会としての取組

- ・第1、2回連絡協議会の設定（事業についての説明・年間計画の確認、成果報告と次年度に向けて）
- ・推進校の選定・・・中学校2校、高等学校1校
- ・外部講師の派遣（専門医等3名、看護師1名、がん経験者2名）
- ・指導案の作成
- ・がん教育講習会の開催（R2.1.20）＊中・高等学校 保健体育科教諭・養護教諭等、外部講師等対象
 解説・実践報告「学校におけるがん教育の推進について」
 講演「モデル授業から学ぶがん教育への感謝と期待
 ～医師として、患者として、子どもをもつ親として～」

順天堂大学大学院医学研究科 教授 佐瀬 一洋

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

関係機関等との連携により、外部講師を招聘し、学校におけるがん教育の推進を図ることができた。健康福祉部健康推進課との連携により、外部講師の活用体制の整備や教員向け手引きの内容等について検討することができた。

(2) モデル校における取組

＜期日及び会場＞

期 日	会 場
令和元年 10 月 9 日（水）	かほく市立河北台中学校
令和元年 11 月 12 日（火）	石川県立金沢伏見高等学校
令和元年 11 月 15 日（金）	羽咋市立羽咋中学校

【かほく市立河北台中学校】

○公開授業

第3学年保健体育科「健康な生活と疾病の予防」

授業者 かほく市立河北台中学校 教諭 金木 三聖

講 師 石川県済生会金沢病院 副院長 龍澤 泰彦

○講演会

「がんを体験し、『生きる』を考える」

講 師 はなうめ ピアサポーター 富士登 寧子

○情報交換会（49名参加）

【石川県立金沢伏見高等学校】

○公開授業

第1学年保健体育科「がん患者への理解と共生」

授業者 石川県立金沢伏見高等学校 教諭 荒川 勝則

講 師 萌の会 代表 和田 真由美

○講演会

「がん患者への理解と共生」

講 師 小松市民病院 院長 村上 真也

○情報交換会（28名参加）

【羽咋市立羽咋中学校】

○公開授業

第3学年保健体育科「がん与健康」

授業者 羽咋市立羽咋中学校 教諭 平戸 和宏

講 師 金沢医科大学病院 看護師長 我妻 孝則

○講演会

「がんをもっと知ろう」

講 師 金沢大学がん進展制御研究所 教授 矢野 聖二

○情報交換会（31名参加）



2. 事業の達成度について

①推進校における生徒アンケートより（対象：中・高校生 250 名）

質問項目等		実施前	→	実施後
1)a	「がんの学習は健康な生活を送るために重要だ」 ※「そう思う」と回答	84.4%	→	94.8%
3)c	「日頃からバランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」 ※「そう思う」と回答	68.1%	→	86.0%
⇒ がんを学ぶことに必要感を感じるとともに、がんを今後の健康な生活と関連付けて考えることができたと思われる。				
3)g	「がんになっても生活の質を高めることができる」 ※「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答	58.8%	→	80.0%
3)h	「がんと健康について、身近な家族から語ろうと思う」 ※「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答	83.7%	→	90.8%
⇒ がん患者に対する正しい認識や共生の視点等について理解し、自他の生き方について考えを深めることができたと思われる。				

②公開授業研究会参加者アンケートより（対象：管理職 4 名、教諭等 68 名、養護教諭等 36 名）

	A	B	C	D
公開授業について	63.0%	35.2%	1.8%	
講演会・研修会について	69.4%	30.6%		
情報交換会について	75.0%	25.0%		

A：とても良かった、とても参考になった

B：良かった、参考になった

C：あまり良くなかった、あまり参考にならなかった

D：良くなかった、参考にならなかった

推進校の生徒にとって、がんに関する知識等については、授業者及び外部講師が準備した資料等の活用もあり、事業実施前より確実に定着を図ることができた。また、生徒の意識の醸成については、命の大切さや共生の視点等についても理解を深め、自他の生き方等について考えることができたと思われる。

推進校以外の先生方への普及については、学校におけるがん教育の実践について、具体的な授業等を参観したことで、理解を深めることができた。また、情報交換会等において、外部講師との連携や各学校で抱える悩み等についても共有することができた。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 新学習指導要領に沿った指導内容等の一層の啓発
- がん教育実施に向けた配慮事項等に対する具体的な手立て
- 外部講師活用リストの周知や運用方法

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・2年間をかけて、県内の全地域で推進校による公開研究授業を実施するとともに、県内の教員のみではなく、外部講師も多く招いてがん教育講習会を実施した。それらにより、推進校以外の教員や新規の外部講師候補者にとって、学校におけるがん教育の進め方等について、指導法や具体的な手立て、生徒の思考の深まり等への理解を深めることができた。
- ・各校で、今後がん教育を進めるにあたり、外部講師との連携がスムーズに進むよう上記リストの周知や無理のない運用方法について検討していく必要がある。
- ・新学習指導要領の実施に伴い、今後も継続的に取り組みを進めていくことで、各校の円滑ながん教育の実施につなげていく。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で 13人

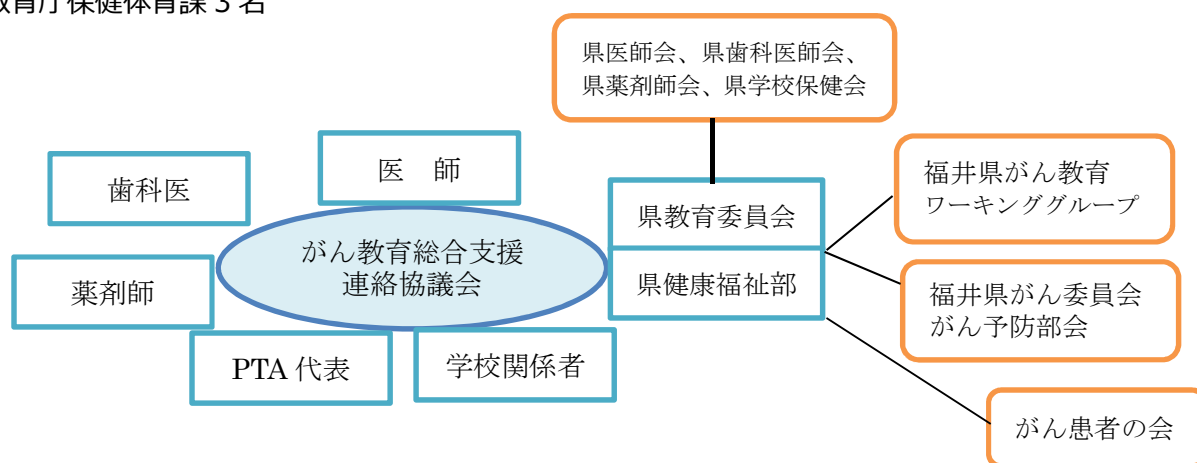
医師（県医師会理事・がん専門医）1人、歯科医（県歯科医師会代表）1人、

薬剤師（県学校薬剤師会副会長）1人、

PTA代表（県PTA連合会）1人、小・中・高等学校長3人、養護教諭（養護教諭研究会会長）1人、

推進校所管の町教育委員会担当者（指導主事）1名、県健康福祉部保健予防課1名、

県教育庁保健体育課3名



2. 開催時期、検討内容

・第1回連絡協議会（6月）

がん教育事業の推進に向けた計画の確認

- ・がん教育研修会の開催について
- ・がん教育外部リスト作成について
- ・モデル校2校の計画について

・第2回連絡協議会（2月）

がん教育事業における今年度の成果報告と次年度に向けて

② 教育委員会としての取組

- ・第1回連絡協議会の設定（令和元年度の事業についての説明と方向性の確認）
- ・第2回連絡協議会の設定（令和元年度の事業における今年度の成果と次年度に向けて）
- ・モデル校2校の選定 中学校1校、高等学校1校
- ・外部講師の派遣（専門医2名、がん看護専門看護師1名、がん経験者1名）
- ・がん教育研修会の開催 令和元年7月29日（月） 管理職・学校医等 対象 参加者235名
講義1「がんに対する基礎知識」
講義2「がん教育模擬授業」～実際の教材資料を用いて～

講師 福井大学医学部附属病院がん診療推進センター 特命教授 片山 寛治 氏
特命助教 児玉麻衣子 氏

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・ 県健康福祉部保健予防課作成のがん教育リーフレットの配布と活用について市町教育委員会に周知した。(配布対象 小学6年、中学2年、高校1年)
- ・ 県健康福祉部保健予防課が実施しているがん教育出前教室の実施について、各県立高校と市町教育委員会を通して公立小中学校に依頼した。7校の申し込みがあり、拠点病院より外部講師が派遣された。
- ・ 福井県がん委員会がん予防部会で、福井県のがん教育の取組について説明した。
- ・ がん教育ワーキンググループ会議(拠点病院医師・看護師・サバイバー代表等で構成)にて、福井県のがん教育の取組や推進の仕方について話し合った。また、がん教育のモデル教材(福井県版)の作成や外部講師の具体的な役割などを話し合った。

【外部講師リスト作成に向けて】

- ・ 県医師会、健康福祉部担当、県教委担当者で外部講師リスト作成について話し合った。
 - * 県内の医療機関に対し、がん教育外部講師の希望調査を実施(11月)
 - * モデル校(高校)の実践後、活用した教材や生徒の反応等を医師会の会報に掲載した
 - * 福井県で作成した教材を活用できる旨を医療機関に周知する
- ・ 県健康福祉部は、がん患者の会に外部講師の依頼調査を行った。(10月)

(2) モデル校における取組

①【福井県立鯖江高等学校】〈公開学校保健委員会〉

令和元年10月11日(金)

○演題:『『がん』のことをもっと知ろう』

○講師:学校医 広瀬 真紀 氏(県医師会理事)、がん経験者

14:50~15:30 広瀬校医による講話

15:30~15:40 がんを経験した方の体験談

○参観者:県内養護教諭・保健主事 14名 がん患者の会代表 3名 健康福祉部 2名

○内容

全校生徒520名と全教職員を対象に、学校医とがん経験者による講演を実施した。学校医からは、がんに関する基礎知識として、「がんの予防」「がんの原因」「がん検診」「がんの治療法」などスライドを使用して説明があった。

がん経験者のお話は、モデル校の養護教諭がインタビューをする形で行われた。「がんと診断された時の気持ちは?」「どのように気持ちを切り替えたか?」「どんな言葉がけをされるとうれしいのか?」などのインタビューに、「がんという病気の知識をもっていたこと」や「家族や友人の支えがあったこと」「周りのみんなが普段通りに接してくれたこと」で、気持ちを切り替えることができたという経験した方からの生の声を聞くことができた。



○生徒の感想

- ・今回の講話で、改めてがんは早期発見、早期治療が大切であると感じた。今は治療法も増えてがんも治るものだと言われているが、予防が最も大切であると思うので、生活習慣を整えていこうと思う。
- ・看護師を目指し頑張っているため、実際にごがん経験者の方お話を聞くことができ、患者さんお気持ちを知る良い機会となった。
- ・がんは誰にでもなる可能性がある病気だと知り、家族全員が健康に気を付けなければならないと思った。早期に発見すれば治療率も上がるので、定期的な検診がいかに大切なことかを実感した。
- ・がんの原因はウイルス性、生活習慣に因るもの、遺伝性などがあること知った。その中で、自分が今できることは生活習慣を見直すこと。また、私の大切な家族ががんにならないよう、家族にも今日の話を伝えたいと思う。

②【福井県永平寺町永平寺中学校】〈公開授業〉

令和元年12月19日(木)

○テーマ：『がん』のことをもっと知ろう

○対象者：中学2年 51名

○講師：福井県立病院 服部 昌和 医師 (健康診断センター長)、
中野妃佐恵 看護師 (がん看護専門看護師)

14:25～15:15 服部医師、中野看護師による講話

○参観者：県内養護教諭 17名 がん患者の会代表 1名 健康福祉部 1名 指導主事 4名

○内容

がんに関する基礎知識として、「がんの予防」「がんの原因」「がん検診」「がんの治療法」など、県立病院医師よりスライドを使用して説明があった。

永平寺中学校の生徒の活動の様子やがん患者の臓器の写真を入れるなどして、医師オリジナルのスライドでの授業であったため、中学生での大変分かりやすかった。

また、看護師によるがんに関するクイズを入れることにより、がんの原因や予防、がん検診についておさえることができた。



○生徒の感想

- ・がんのイメージは死んでしまう人が多くて、怖い病気のイメージがあった。しかし、早期発見すれば助かる確率が9割と聞いて驚いた。がん検診を大人になったらしたいなと思った。
- ・がんについてのお話を聞いて、自分もなる可能性があるということがわかった。お父さんやお母さん、家族にはなってほしくないと思うので、家に帰ったら、がん検診のことを話してみたい。
- ・がんについて勉強してみて、がんのイメージがだいぶ変わった。最初は、こわい・死ぬ・つらいみたいな悲しくてつらいイメージだったが、今は、がんは早期発見であればあるほど治る確率が高く、戦うことができるというイメージに変わった。がんにならないためにも、たばこやお酒、日常生活に気を付けたい。また、身近な存在である家族や友達にがん検診の呼びかけをし、一緒にいられることに感謝したい。

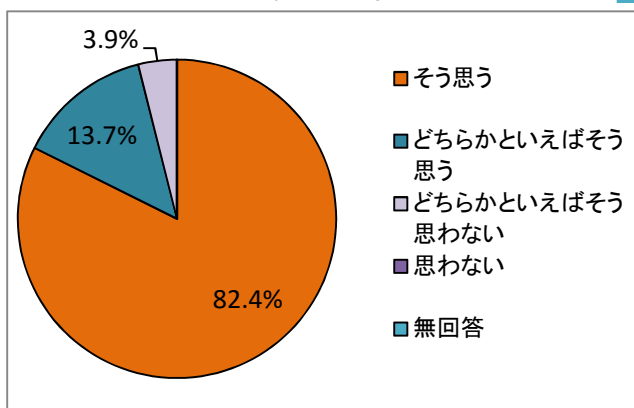
○参観者の感想

- ・クイズを絡めながら専門家からの講話を聞くことで、参加型の授業につながったと思う。また、実際の臓器の写真などをスライドにあげてあったのでイメージが付きやすかった。
- ・身近な病気としてがんをとらえ、早めの予防対策やもしもかかってしまった場合でも、あせらず治療に向き合う心構えを持たせるには、中学生くらいから指導を受けることは大事なことだと理解できた。自分、そして人へと広がっていく力を育てていくべきだと感じた。

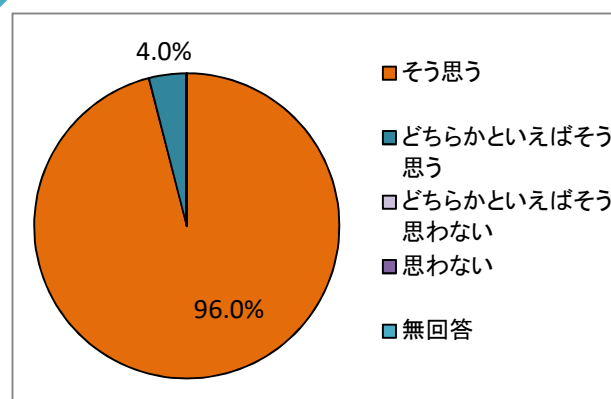
2. 事業の達成度について

①がん教育推進校 中学2年対象

(1)「がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ」
(授業実施前)

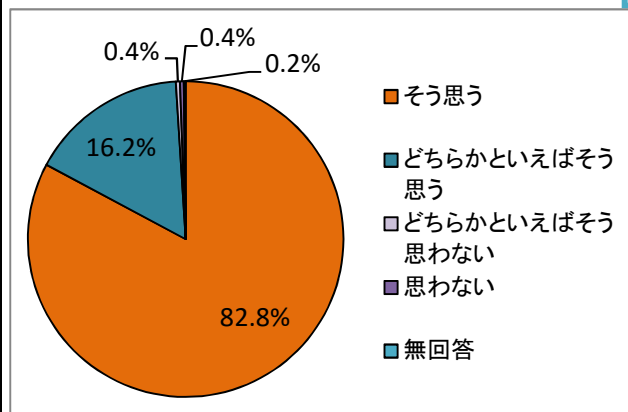


「がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ」
(授業実施後)

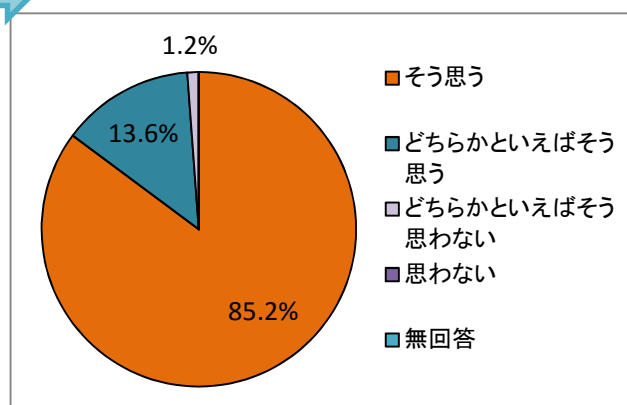


②がん教育推進校 高校全学年対象

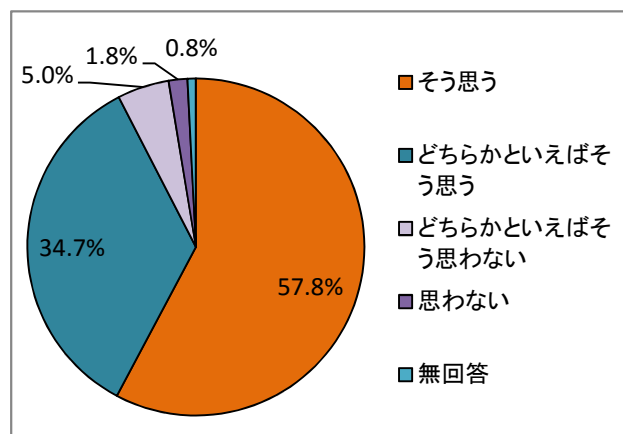
(1)「がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ」
(授業実施前)



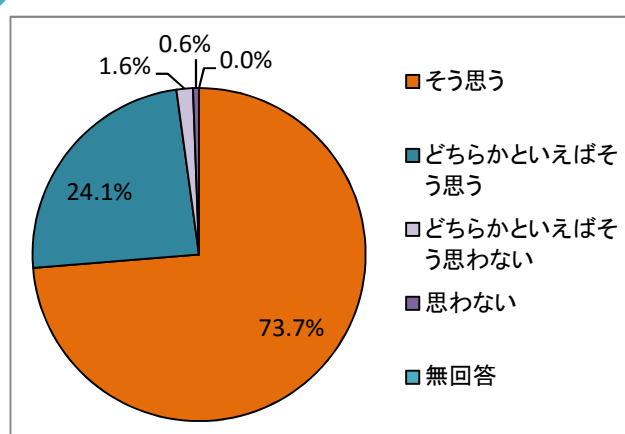
「がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ」
(授業実施後)



(2)「がん検診を受けられる年齢になったら、
検診を受けようと思う」
(授業実施前)



「がん検診を受けられる年齢になったら、
検診を受けようと思う」
(授業実施後)



- ・推進校2校の授業前後の意識調査では、中学校と高等学校ともに「がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ」の設問に、授業実施前後で数値の上昇が見られたが、授業前からがん教育に対する意識が高い傾向にあることもわかった。
- ・推進校の高等学校は、生徒のことをよく知っている立場である学校医が、「がん検診の大切さ」について講義を行ったことで、検診の大切さについて意識が高まったと思われる。
- ・推進校2校の公開授業では、外部講師の先生には、文部科学省のスライド等を活用して授業を行ったため、参観者から「教材の活用方法について参考になった」という感想があった。公開授業を実施したことは大変有効であった。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- （1）学校全体で取り組むがんに関する教育の推進に向けて
 - ・体育科、保健体育課、総合的な学習の時間、特別活動、道德等、教育活動全体での横断的な実施や学校保健計画の位置づけなどを周知する必要がある。
- （2）外部講師を活用した効果的な授業展開に向けて
 - ・推進校2校の公開授業を行ったことで、参観者ががん教育を進めるためのイメージをつかむことができた。
 - 今後、各校においてがん教育が円滑に進められるためには、外部講師との十分な打ち合わせの時間の確保や配慮する児童生徒への対応や講師謝金等が課題となってくる。
 - ・がん経験者の立場から、自らの経験をお話していただけることは、なかなか機会がなくとても重要である。がん経験者の方を講師としてお願いするための講師の確保が課題となる。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- （1）外部講師の人材確保
 - ・外部講師を随時募集し、新たな人材を確保が必要である。
 - ・学校医を対象としたがん教育に関する研修を開催し、学校医にも周知する。（県医師会主催の研修会を令和2年度に開催予定）
 - ・関係部局との更なる協力体制の構築が課題である。
- （2）がん教育の教材の活用と開発
 - ・福井県版のがん教育教材（小・中・高校版）の活用についての周知と活用後の意見を収集し、教材の見直しをしながら、がん教育の充実を図る。
 - ・福井県版の「がん教育の手引き」の作成も今後視野に入れる必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

医師会代表（長野市医師会）、歯科医師会代表（長野県歯科医師会副会長）、薬剤師会代表（長野県薬剤師会副会長）、行政担当者（県健康福祉部保健・疾病対策課長）、がん経験者代表（松本市）、PTA代表2人（長野県PTA連合会理事、長野県高等学校PTA連合会副会長）、校長代表2人（長野市立東北中学校長、長野県須坂創成高等学校長）、教員代表3人（千曲市立戸倉小学校教諭、伊那市立伊那中学校教頭、長野県野沢北高等学校教諭）、養護教諭代表（長野県野沢北高等学校養護教諭）、県教育委員会事務局4人（保健厚生課長、保健厚生係長、指導主事、担当指導主事）

* 協議会アドバイザー：信州大学医学部 小泉知展 教授

2. 検討時期、内容

実施時期	実施事項	備考
9月3日	第1回協議会（がん教育の推進に向けた計画の検討）小泉アドバイザーからのアドバイス	出席者 17 名
1月23日	第2回協議会（がん教育に関する実践の検証）小泉アドバイザーからのアドバイス	出席者 18 名

② 教育委員会としての取組

実施時期	実施事項
9月19日	1 パイロット校 公開授業（高等学校・保健体育） 演題「がんについて知り、学び、伝えること」 外部講師信州がんセンター所長 小泉 知展 氏による講演 がん教育の基本的な内容と進路に関わって生徒のニーズに応える講演 参加人数名 20 名【教職員 11 名、外部講師 3 名、市町村教委 6 名】
10月23日	2 パイロット校 公開授業（中学校・特別活動） 専門医からがんについて話を聞いたり、疑問や不安を感じていることを専門家へ質問したりすることを通して、自分の健康や命を意識し、自分にできることは何かを考えた授業 参加人数名 33 名【教職員 22 名、外部講師 8 名、市町村教委 5 名、推進委員 1 名】
11月6日	3 パイロット校 公開授業（小学校・保健体育） がん経験者の方のお話をもとに、「命の大切さ」や「健康を守るためにしていきたいこと」を考え合うことを通して、自分の健康を保持増進しようとする気持ちをもつとともに、今の自分にできることを考え、実践する態度を育てる授業 参加人数 13 名【教職員 5 名、外部講師 3 名、市町村教委 5 名】
11月15日	4 パイロット校 公開授業（高等学校・総合的な探究の時間） 外部講師の保健講話や保健の授業で学んだことを生かし、生涯を通じる健康課題、医療制度など探究的学びの中で「がん」をキーワードとして取り上げて将来予想される立場から自らの問いに対して考え、解決方法を考える授業 参加人数名 12 名【教職員 6 名、がん経験者 2 名、市町村教委 4 名、推進委員 1 名】
11月29日	5 がん教育研修会（全県対象） がん教育の理解を図るため、教職員及び外部講師を対象に研修会を開催した。 【参加人数：教職員 53 人、外部講師 11 人】

(2) モデル校における取組

千曲市立 戸倉小学校

学級単位

がん経験者

伊那市立 伊那中学校

学年単位

医療従事者

長野県 野沢北高等学校

全校講話
学級単位

がん専門医

<授業のねらい>

「命の大切さ」や「健康を守るためにしていきたいこと」を考え合うことを通して、自分の健康を保持増進しようとする気持ちをもつとともに、今の自分にできることを考え、実践する態度を育てる。

専門医からがんについて話を聞いたり、疑問や不安に感じていることを専門家へ質問したりすることを通して、自分の健康や命を意識し、自分にできることは何かを考えることができる。

外部講師の保健講話や保健の授業で学んだことを生かし、生涯を通じる健康課題、医療制度など探究的学びの中で「がん」をキーワードとして取り上げて将来予想される立場から自らの問いに対して考え、解決方法を考えることができる。

<外部講師の活用について>

<外部講師の活用例>

- ・導入
子どもの質問に答える
- ・展開
ご自身の経験を語る
- ・終末
子ども達へのメッセージ

<外部講師を入れたグループ活動のポイント>

- ・外部講師と質問形式や時間配分を打ち合せた上でのグループ活動をする。
- ・生徒が何を知りたいか、何を聴きたいか共通理解を図る。

<外部講師にお願いした内容>

- ・がん教育の基本的な内容やがんの現状等の話を聞く。
- ・長野県はがんの死亡率が低いことを知る。
- ・男性、女性で差があることや、年齢が上がるにつれて罹患しやすくなることを知る。等

<外部講師を活用することで> 児童生徒の感想より

私の心に残った言葉は、「命は使える時間」と「自分は一人じゃない」です。がん患者さんから、元気のない人が来ると思ったけど、〇〇さんはすごく明るい人だったので良かったです。これから講師の先生の言葉を守りたいです。

わたしは、二人のお話を聞いて、抗がん剤は100種類ぐらいあるのに、それでも治らないがんがあると知って、がんはとても怖いものだと思いましたが、改めて感じました。また、患者さんと接していく中で話をよく聞くこと、気持ちを読み取ることを大切にしていることを知ることができました。

がんになってしまった人をほっておくのではなく、一緒になって考えることができるようになりたいです。将来、理学療法士になりたいと考えているが、がんの治療現場でも仕事があり、様々な分野で仕事があるので、身体だけではなく、精神的なサポートもできるような人になりたい。

どの学校種でも外部講師を積極的に活用した取組を実施してきた。児童生徒の感想にあるように外部講師が授業に入ることにより、自分の健康の保持増進につなげたり、高校生は将来について考えたりしたことを記述していることから学びが深まった捉えることができる。

2. 事業の達成度について

- ・小学校の公開授業では「誰もができるがん教育」をキーワードに、事前アンケートや打ち合わせを大切に行うことで教師も児童も安心をして学ぶことができた。
- ・公開授業では、発達段階を考慮した内容・学習形態が考えられ、外部講師が有効に活用されていた。その要因の1つに、外部講師との打ち合わせと、事前の調査の情報共有が良かったからだを考える。この打ち合わせの形式等を一般化できるように考えていく。

右枠内はその例である。学習指導要領で学べき内容とパイロット校の指導例を参考に示していけるとよいと考えている。

<一般化の例>

- ・各校種の学習指導要領の扱い
- ・補助教材の紹介
- ・指導例
 - 1 対象学年
 - 2 指導形態
 - 3 外部講師
 - 4 授業の計画
 - 5 講師と事前打ち合わせする際のポイント
 - 6 日程案
 - 7 授業の概要

講師と事前打ち合わせする際のポイント

- ・主な授業の流れや授業概要を伝える。
※講師を依頼した理由や学校におけるがん教育の取組の状況なども含めて
- ・役割分担についても決めておく（下写真参照）。
- ・事前にアンケートをとっていれば、その概要などを簡潔に伝える。また、配慮しなければならない児童があれば、事前に担当（担任、養護教諭等）から講師へ伝える。
- ・児童生徒の質問がある場合はあらかじめまとめて伝える。
- ・連絡・確認（日程、学校側の責任者、連絡担当者、連絡方法、交通手段、駐車場等）

外部講師と授業をつくる 担任→外部講師の話をまとめる 外部講師→スケッチブックで説明



授業のねらいに沿って、どのように外部講師を活用するかを決める。

～外部講師の活用例～

<導入>

子どもの質問に答える

<展開>

ご自身の経験を語る

<終末>

子ども達へのメッセージ

担任が外部講師の話を聞きながら、ねらいに沿った大事な部分を板書している場面
授業のねらいが共有されることでこのような活動ができます。

※小・中・高等学校のどの段階においても、学習のねらいを明確にすることで、外部講師と授業を有効につくっていくことができる。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

＜今後の課題＞ ※がん教育推進協議会で出された意見より

- ・発達段階を考慮した内容・学習形態、外部講師との打ち合わせ、事前の調査等、小・中・高で最低限抑えるべきことを示し、「誰もができるがん教育」につなげていく。
- ・高校では、生徒の力によって、その高校にあった授業を展開が考えられるので、こういう内容で、こういうパターンという形で示し、現場の高校教員が使いやすい資料等を考えていく必要がある。
- ・新学習指導要領では様々な裁量があり、他教科と関連付けが可能である。県としてもある程度方向を示しながら各校の実情に合わせたがん教育を工夫して進められるように支援していきたい。また、学校保健計画にもがん教育が位置づくようなカリキュラムマネジメントが今後の課題である。
- ・学習によって得られたことが、行動にどうつなげることができるかを考えていく。生徒の実態に合わせて、もっと先を教える場合もあるので、自由度がある展開ができるとよい。学んだあとどうするかを示すものが手引きにあるとよい。
- ・健康長寿を目指す長野県としては、がん教育をこういう位置づけで考えているというものを示していきたい。例えば、減塩運動をして健康管理をすることが、がんの死亡率を下げたのだと考え、食育とがん教育を結ぶようなアイデアが出てくるように考えていきたい。データとして示されるわけではないが、健康長寿を目指すことが今後も重要であり、知事部局や他の機関とも連携していく。
- ・がん教育はプライバシーにかかわり配慮する事項が多いことから敬遠されがちである。事前アンケートや打ち合わせを大切に行うことで教師も児童も安心して学ぶことができるがん教育を目指す。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

平成 30 年度におけるがん教育の実施状況調査の結果について

調査時期 平成 31 年（令和元年）

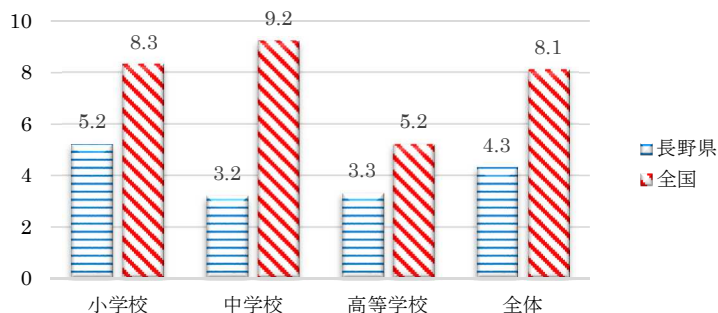
対象年度 平成 30 年度

30 年度【長野県】

外部講師活用校

小学校相当 5.2% 中 3.2% 高 3.3%
(20 校) (7 校) (4 校)

外部講師を活用したがん教育の実施状況



平成 30 年度のがん教育実施状況調査の結果を見ると、長野県の外部講師を活用する割合は、全国と比べるとまだ低い段階である。

現在、長野県の外部講師のリストは右図のようになっているが、活用が十分にされているとは言えない。そこで、学校側が外部講師を依頼する際の手続きの明確化（日程調整、授業内容、教育上必要な配慮事項等）による外部講師の授業実践を促進・支援する体制整備等を整えること。また、広く周知していくことが今後の課題である。

外部講師 リスト更新

○個人登録 32 名
医療従事者 28 名
がん経験者 5 名
○団体登録 6 団体
(令和 2 年 9 月現在)



がん教育 外部講師リスト
令和 2 年 9 月現在

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で14人

内訳：医師会1名（内科医）、がん拠点病院1名（がん専門医）、大学教授・准教授2名、
県健康福祉部保健医療課健康推進室長1名、がん経験者2名、養護教諭2名、
モデル授業校授業者（高等学校保健体育科教諭）2名
県教育委員会体育健康課事務局3名

2. 開催時期、検討内容

■第1回協議会【9月24日（火） OKBふれあい会館】

○平成30年度の「がん教育」の実施状況について

○平成30年度の「がん教育」の推進について

○今後の学校における「がん教育」の推進について

○今年度の「がん教育」モデル校における取組について（各務原西高等学校・大垣西高等学校）

■第2回協議会【2月4日（火） OKBふれあい会館】

○今年度の「がん教育」の実施状況について

○今年度の「がん教育」の取組について（各務原西高等学校・大垣西高等学校）

○来年度の学校における「がん教育」の推進について

○来年度の「がん教育」モデル校における取組について

② 教育委員会としての取組

■令和元年度 がん教育指導者研修会（参加者：100人）

・令和元年7月30日（火） 岐阜県図書館

・主催：岐阜大学医学部附属病院、岐阜県図書館、岐阜県教育委員会

・対象：養護教諭、保健体育科教諭、教育委員会指導主事 等

○講話1：「これからのがん教育について～小児がん治療医として～」

小関 道夫 氏（岐阜大学医学部附属病院）

○講話2：「いよいよ始まるがん教育～基礎と発展～」

浮田 雅人 氏（高山赤十字病院）

■夏休み中学生向け講座「がんと医療」（参加者：3日間合計71人）

・趣旨 病院の仕事や医師の仕事などのキャリア教育の視点も取り入れて、死亡率の高いがんに対する正しい知識、がん予防の取組、命の大切さを学ぶ

・主催 岐阜県図書館 岐阜県教育委員会 岐阜大学医学部附属病院

○令和元年8月1日（木） 岐阜県図書館

・午前：オリエンテーション 岐阜県図書館

午後：病院出張授業（キャリア教育） 岐阜大学医学部附属病院

- ・講話①：岐阜大学病院の概要 山口 昇 氏（岐大医学部附属病院）
- ・講話②：医師の講義 田中 善宏 氏（岐大医学部附属病院）
- ・講話③：看護師の講義 高橋 繭 氏（岐大医学部附属病院）
- ・講話④：薬剤師の講義 船渡 三結 氏（岐大医学部附属病院）
- ・医学部附属病院の見学と内視鏡手術の操作体験

○令和元年 8 月 7 日（水） 岐阜県図書館

- ・終日：図書館資料等で調べ学習 発表資料の作成
- ・医学科生 1 名、看護科生 5 名のアドバイザーとして参加

○令和元年 8 月 23 日（金）

- ・午前：発表練習
- ・午後：発表会



夏休み中学生向け講座 チラシ（表）



夏休み中学生向け講座 チラシ（裏）



夏休み中学生向け講座 医師の講義



夏休み中学生向け講座 内視鏡手術の体験



夏休み中学生向け講座 発表資料の作成



夏休み中学生向け講座 発表会



夏休み中学生向け講座 医師による講評



中学生の発表資料を図書館で展示

■令和元年度 学校保健講習会（県内養護教諭 悉皆研修）

- ・【岐阜地区】令和元年7月12日（金） 巣南公民館（瑞穂市）
- ・【西濃地区】令和元年7月4日（木） ハートピア安八（安八町）
- ・【美濃・可茂地区】令和元年7月2日（火） 可茂総合庁舎（美濃加茂市）
- ・【東濃地区】令和元年6月26日（水） 恵那総合庁舎（恵那市）
- ・【飛騨地区】令和元年7月9日（火） 飛騨総合庁舎（高山市）
- ・【県立学校】令和元年6月28日（金） 不二羽島文化センター（羽島市）

※対象：各小・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校（養護教諭・保健主事）

（参加者：岐阜地区…152人、西濃地区…109人、美濃・可茂地区…126人

東濃地区…98人、飛騨地区…60人、県立学校…198人）

○講義：「がん教育を進めるにあたって」 県教育委員会体育健康課学校保健係 指導主事

■モデル校を指定した授業実践（高等学校2校）

- ・がん教育のモデル校として高等学校2校を指定し、外部講師を活用したがん教育の授業実践に取り組んだ。

○岐阜県立各務原西高等学校【岐阜地区】

「がんについて正しい知識を身に付け、健康で明るい未来のため、自分たちにできることを考えよう。」

外部講師：岐阜県総合医療センター 医師

○岐阜県立大垣西高等学校【西濃地区】

「がんができる仕組みや原因を理解し、予防法について考えよう。」

外部講師：大垣市民病院 医師

「がん経験者から学ぶ～命・生きる～」

外部講師：大垣市民病院 医師

がんサポート団体 代表

■がん教育の授業モデル（基本的な指導案）の周知

- ・モデル校の授業実践をもとに、外部講師を活用したモデルとなる指導案や授業で使用した資料を、県のホームページに掲載して各学校等への周知、普及を図った。
- ・冒頭では、がん教育を進めるにあたって、まずは、子どもたちに指導する教師自身が『がん』及び『がん教育』について主体的に学び、取り組んでもらいたいという願いと配慮点等について記した。
- ・授業で使用した資料を県のホームページに掲載し、各学校の授業でも活用できるようにした。



本時の目標

- ・がんについて正しい知識を身につける。
- ・健康で明るい未来のため、自分たちにできることを考える。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県健康福祉部保健医療課健康推進室に依頼して、「学校におけるがん教育推進協議会」の委員に就任していただき、助言をいただくとともに、県や国の動向についての情報提供や、外部講師のリスト作成に全面的にご協力いただいた。また、県内のがん拠点病院、看護協会、がん体験者等とのつなぎ役となって、外部講師や研修会の講師をご紹介いただいた。
- ・保健医療課が主催する「岐阜県がん対策推進会議」に参加し、共通理解を図るとともに、第三次岐阜県がん対策推進計画に、学校におけるがん教育も位置付けて共有した。

(2) モデル校における取組

【目的】・令和4年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領に位置付けられている「がんの予防」の授業モデル（外部講師を活用したがん教育）を研究実践し、その基本となるがん教育のモデル授業案を作成して、県内各高等学校及び関係者等に配信することで、教職員のがん教育に対する認識を深めるとともに、学校におけるがん教育の推進を図る。

【内容】・高等学校2校を指定し、授業実践を通して、外部講師を活用したがん教育のモデル授業案を作成する。

- ・作成したモデル授業案を保健体育担当教員の研修会等で周知するとともに、HPに掲載し、活用を促す。

■外部講師を活用したがん教育モデル授業 授業研究会

- ・令和元年12月6日（金）岐阜県立各務原西高等学校 1年2組（35名）

授業者：教 諭

○【保健】「がんについて正しい知識を身に付け、健康で明るい未来のため、自分たちにできることを考えよう。」

講 師：岐阜県総合医療センター 医師 清水 省吾 氏

○参加者：30名（高等学校教諭、養護教諭、指導主事、がん教育推進協議会委員等）

《保健の授業の様子》



・令和元年12月11日（水）岐阜県立大垣西高等学校 1年4組（32名）

授業者：教諭

○【保健】がんができる仕組みや原因を説明することができる。

がんについて予防法を考えることができる。

講師：大垣市民病院 医師 進藤 丈 氏

○参加者：40名（教育委員会指導主事、がん教育推進協議会委員等）

・令和2年1月9日（木）岐阜県立大垣西高等学校 第1学年 200名

授業者：教諭

○【ホームルーム活動】「がん」との向き合い方を考える。

講 師：大垣市民病院 医師 進藤 丈 氏

がん患者会 代表 彦田 加奈子 氏

○参加者：10名 （教育委員会指導主事、がん教育推進協議会委員等）



『「がん」との向き合い方を考える』

令和2年1月17日 岐阜新聞掲載

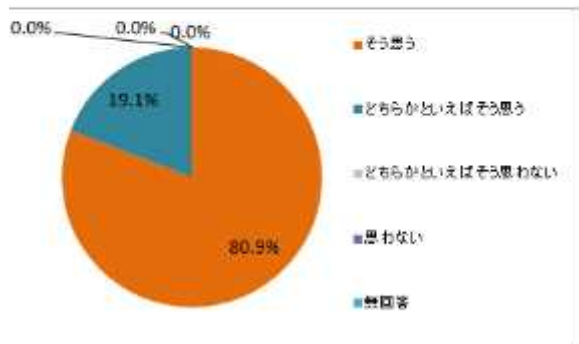
2. 事業の達成度について

(1) がん教育モデル授業 指定校意識調査 (高校1年生対象)

1) がんについて当てはまるもの

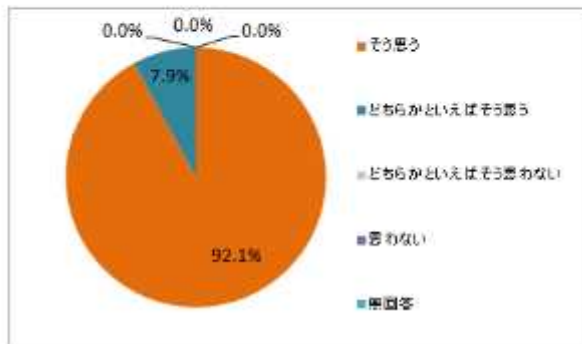
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ (事業実施前)

(単位:人)	
そう思う	186
どちらかといえばそう思う	44
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0



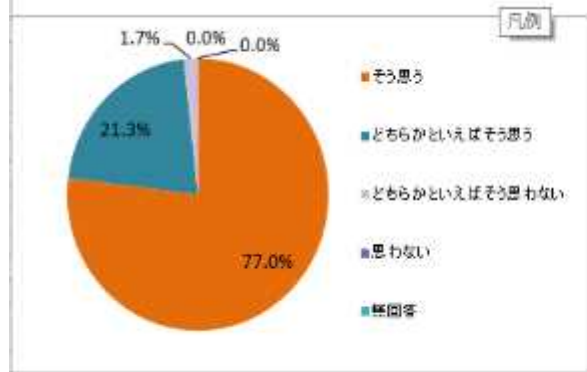
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ (事業実施後)

(単位:人)	
そう思う	210
どちらかといえばそう思う	18
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0



b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ (事業実施前)

(単位:人)	
そう思う	177
どちらかといえばそう思う	49
どちらかといえばそう思わない	4
思わない	0
無回答	0



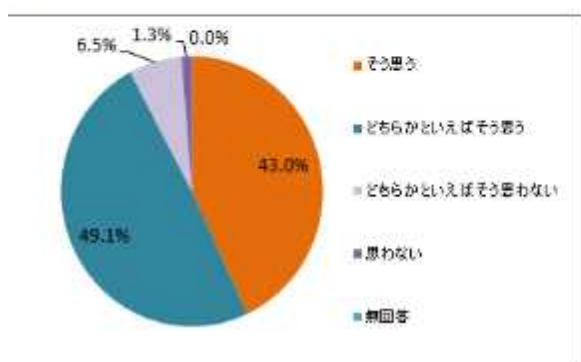
b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ (事業実施後)

(単位:人)	
そう思う	210
どちらかといえばそう思う	17
どちらかといえばそう思わない	1
思わない	0
無回答	0



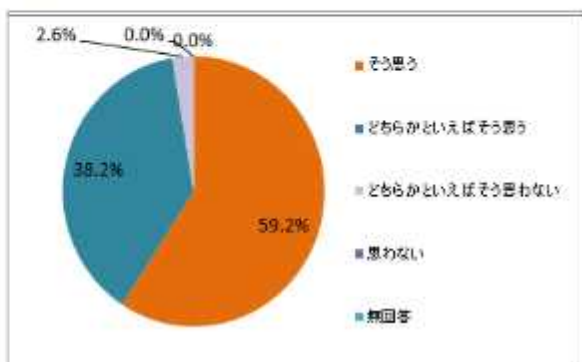
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う (事業実施前)

(単位:人)	
そう思う	99
どちらかといえばそう思う	113
どちらかといえばそう思わない	15
思わない	3
無回答	0



c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う (事業実施後)

(単位:人)	
そう思う	135
どちらかといえばそう思う	87
どちらかといえばそう思わない	6
思わない	0
無回答	0



○がん教育モデル授業指定校の2校における意識調査のアンケートにおいては、「①がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」、「②がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ」という設問に対して、いずれも「そう思う」の回答に授業前と授業後での大きな変容が見られた。

がんについて授業の前は、「怖い、死ぬかもしれない病気」というイメージを多くの生徒がもっていた。しかしがんについて、外部指導者（医師）の話を聞いたり、がん患者さんの話を聞いたりするなかで、がんに対する理解を深め、がん患者さんの心に寄り添うこと生徒が多くみられた。

意識調査の設問にある「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」について、授業前と授業後に大きな変容が見られた。このことから、生徒自身が学習を深め、がんと健康について、まず自分で取り組むことができそうなことから実践しているとする実践力につながったと考える。

（2）がん教育モデル授業 生徒、参観者の振り返り及び感想

《生徒の振り返り》

- 今回の授業を受けるまでは、がんになったら確実に死んでしまう恐ろしい病気で絶対に治せないというイメージがあった。しかし、授業を通して、死亡率は高いけど、確実に死んでしまうのではなく、治すことができることがわかった。一次予防や二次予防を通して少しでもがんのリスクを下げられるようにしたい。
- がんは誰にでもかかる可能性があり、3人に1人が亡くなるときいて驚いた。自分とはかからないとおもわずに生活習慣を見直したい。
- 私は健康だから大丈夫だろうと思っていたけれど、2人に1人ががんになる可能性があることを知って、他人事ではないと思った。がんは、たばこを吸わないことや普段運動をしっかりするなど、身近な生活習慣から少しでも予防できることがわかったので意識していきたい。また、親など家族にも健康でいてもらいたいので、いろいろ話してみたいと思った。
- がんは身近というのが意外だった。誰にでもなる可能性があると聞いて、他人事ではないとわかった。少しでも予防できるように日頃の生活習慣を気をつけたい。将来、大人になったら、定期的な検診もしていきたいと思った。家族とも話し合ったりしていきたいと思った。
- 今まで身近なものとして考えていなかったけど、説明を通して将来がんになる可能性があるから、今から知識を身に付けておくことが大切だと思った。
- 2人に1人ががんになることを聞くと、他人事だと思わずに予防したり検査したりするようにしたい。
- 今までがんは、高齢者がなると思っていたけど、若い人でも可能性があると聞いて、今日から生活習慣を変えていきたいと思った。周りにもがんの危険性を知らせたい。
- がんを早く見つけて、早く治療すれば治るとわかった。しかし、現状では2人に1人がかかって3人に1人が亡くなるのだから簡単には見つからないのかなと思った。
- 危険性や予防法を知ることができたので今後の生活に生かしたい。
- がんの発生の仕方を理解できた。がんの知識がほとんどないことがわかり、自分でがんについて知ろうと思った。

《参観者の感想》

- 専門的な知識を専門家の方から教授していただくことは、分かりやすく、新鮮で、記憶に残りやすいと思った。生徒にとっても、教える側の立場の教員にとっても、大変有効だと感じた。
- 授業者と講師の先生の連携、タブレットを活用した調べ学習と生徒の理解を深めるために様々な工夫が見られた。
- 生徒の「がん」に対するイメージから始まり、「なぜがんの早期発見・早期治療の大切なのか。」まで理解しやすい授業が進められていた。とくにがんの仕組みを外部講師が説明している時、生徒が一瞬懸命、話を聞いている姿が印象的でした。「怖い」から「治る」「予防できる」というイメージを生徒がもつことができる授業だった。
- グループで各自がタブレットを用いて調べ学習をしている姿、調べたことをまとめて、グループ内で交流している姿から、生徒が主体的に学ぶことができ、本時学んだことが将来に役に立つとよいと思う。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

＜モデル授業研究会から＞

- 高校生の授業を行うときに、自分がどう「がん」と向き合っていくか、社会とのつながりをどのように考えていくのか、ということが課題である。生徒が「がんを学ぶ（がんを正しく理解する）」「がんを通して学ぶ（がんに向き合った生き方を学ぶ）」の両面に迫ることができるようにする。
- 外部講師と連携する重要性は、十分に感じることができたが、互いに打ち合わせの時間を確保することなどを考えると、実際には課題が多いように感じる。
- 教科書だけでは何を教えるべきなのかが難しく、「がん」について取り上げるなかで全てを網羅しようとする1時間では足りず授業の展開に困った。がんについて学ぶべき知識は、多岐に渡るので「何を学ぶのか。」を精選することが重要である。
- 授業が進んでいくにつれて生徒の関心が高かった。そこで外部講師の説明や生徒自身の考える時間や交流する時間ばかりでなく、外部講師への生徒が質問する時間や実際の医療現場での話も聞くこともできたと思う。中学生でがんについて学んできた生徒が高校に入学する数年後には、生徒が外部講師に質問をして、学びたい内容を自ら学ぶ、より主体的な授業も可能だと考える。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- モデル校では、外部講師と連携したがん教育を実践した。しかし外部講師がいないからがん教育ができないではなく、保健体育科の教諭の指導力を高めることも重要である。指導者研修会を授業の資料の提供など、外部講師と連携した授業づくりと教師の指導力向上の両方からがん教育を推進していくようにする。
- がん教育で何を学ぶのか、発達段階に応じて考えていく必要がある。中学校で何を学び、高等学校では、中学校で学んだ上でさらに何を学ぶのかを考える必要がある。また、がんを正しく理解するように知識を学ぶのか、がんの患者さんの心に寄り添うような心情や人との関わりをねらいとするのかで授業が変わってくる。各学校がねらいを明確にして行うこと等、基本的な考え方を含めて指導案のモデルを発信していく。
- 外部講師の確保については、がん拠点病院を中心に依頼を進めてきたが、謝金等かかる費用や依頼の仕方等、学校が簡単に依頼できる状況になるには、まだまだ越えなければならないハードルが多々ある中、さらに工夫して整備していく必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 検討会について

1. 構成員

全員で13名
医師2人（産婦人科医・静岡県医師会副会長、医療行政・疾病対策課長）、がん経験者1人（校長）、
モデル校2人（高校養護教諭、中学教頭）、総合教育センター指導主事2人（高校保健体育、中学保健体育）
教育事務所2人（養護教諭）、教育委員会事務局4人

2. 開催時期、検討内容

期 日	場 所	内 容
6月27日（木）	静岡県庁	がん教育の推進に向けた計画や進め方の検討（医療機関における外部講師リスト作成、教職員・外部講師対象の研修会、モデル校の取組等）
1月22日（水）	静岡県庁	がん教育に関する計画や取組の検証、次年度の計画や取組について協議（患者会における外部講師リスト作成に向けて、教職員等の研修会、モデル校の実践評価）

② 教育委員会としての取組

- 令和元年度がん教育教職員・外部講師合同研修会【10月29日（火）】
 - ・外部講師を活用した、教職員・外部講師のがん教育に対する理解を深め、学校でのがん教育の充実を図ることを目的に開催した。
 - ・参加人数：100人（教職員71人、患者会15人、医療関係者等14人）
 - ・【講義1】「静岡県のがんの現状と対策」
（静岡県健康福祉部 医療健康局 疾病対策課 がん対策班）
 - ・【講義2】「がんの基礎知識とがん教育の大切さ」
（静岡県立大学 食品栄養環境科学研究所 食品環境研究センター 教授 若林 敬二 氏）
 - ・【説明】「文部科学省主催がん教育研修会伝達」 （静岡県教育委員会 健康体育課）
 - ・【協議】グループ協議 「今後のがん教育に向けて」 （静岡県総合教育センター 指導主事）
- がん教育における外部講師派遣可能病院一覧作成
 - ・県内における、がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、地域がん診療連携推進病院、がん相談支援センター等のがん教育の依頼をした。一覧表には、がん教育の派遣可能な地域（市町等）、講師職、テーマ、対象、規模、費用等を掲載し、県立学校に配布した。希望のある学校については、県教委がとりまとめ医療機関に連絡するという体制づくりをした。（表あり）

令和2年度　がん教育における外部講師派遣可能病院一覧											
（がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、地域がん診療連携推進病院、がん相談支援センター等）											
可能な市町（地区）	施設名 （住所）	講師職名	テーマ					対象 小・小学生 中・中学生 高・高校生 教職員 保護者	規模 形態	費用	連絡先住所 電話番号 担　当　所　属
			予防・健康	がんの基礎	患者・家族対応	治療後の支援	他				
全県	××病院	医師・看護師 コメディカル						○ 要相談	教職員のみ	講演	無料 〇〇〇—×××—1111 （代） （内線〇〇〇〇） 医療情報室
全県	△△総合病院	医師・看護師 薬剤師・相談員		○	○	○			小/中/高 /教職員	講演/ 学級・学年	旅費のみ
●●市	○×医療センター	医師・看護師 薬剤師・栄養士		○	○	○			小/中/高 保護者/教職員	講演/ 学級・学年 全校	要相談
〇〇市	□□市民病院	医師・看護師 薬剤師	○	○	○	○	がんの薬		中/高/ 教職員	授業/ 学級・学年	要相談

○ 事業成果の普及

- ・平成元年度がん教育総合支援事業におけるがん教育モデル校の実践等を、次年度の体育主任研修会や養護教諭研修会、保健主事研修会等で「がん教育実践報告」として発表し、教職員に周知する。
- ・外部講師として依頼する拠点病院等にすべて訪問し、文科省からのがんに関する通知や教材等の資料説明をし、がん教育に理解をしていただくことで協力体制を強化した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 県健康福祉部医療局疾病対策課がん対策班に依頼し、教職員等の研修会で「静岡県のがんの現状と対策」について、資料提供とともに説明をしてもらうことで、県の状況等をより深く周知する機会となった。

(2) モデル校における取組

【静岡県立静岡東高等学校】

○ 取組テーマ

生徒が【がんに対する正しい理解】ができるようになり、「健康と命の大切さ」を考え主体的に行動できるようになる。

○ 取組の実際

対象	実施時期	教科等	時間数	内 容
1・2年 医療・教育関係志望者等	7月	放課後	2	○「”がん”になるとどうなるの？」 「”がん”ってどう治すの？」などの素朴な疑問から、がん患者にどう寄り添えばいいのか、がん患者のためにできることはどんなことか等より深い情報まで、専門家である医師に直接聞くことができる勉強会 講師 静清リハビリテーション病院 院長 高木正和
がんに関する勉強会 日時：7月24日(水)14:00～15:30 ※～16:00自由質問タイム 場所：第2視聴覚室 テーマ：ドクターとしゃべり場！～がんについて聞く・知る・話す会～ 講師：静清リハビリテーション病院 院長 高木 正和 先生 JBCTがん治療認定医 内容：「“がん”になるとどうなるの？」「“がん”ってどう治すの？」などの素朴な疑問から、がん患者にどう寄り添えばいいのか、がん患者のためにできることはどんなことか がんってどんな病気なの？ 自分は将来がんになる可能性はあるの？ 何人に1人ががんになるの？ 自分は絶対にがんになりたくない がんは自分に関係ない 等より深い情報まで、専門家である医師に直接聞くことができるとても貴重な機会です。「がんについて学びたい人」「医療関係の職業を目指す人」にお勧めの講座です！ 申込：6月26日(水)までに保健室へキリトリ線以下を提出してください。				
1年生	11月	科目「保健」	2	○現代社会と健康「生活習慣病と予防」働く人の”ある悩み”について一緒に考える ○現代社会と健康「生活習慣病と予防」がんについて専門的に学ぶ ～原因・予防・治療の最新情報～ 講師 静清リハビリテーション病院 院長 高木 正和 氏



年間を通して、「がんを考える」と題して、保健だよりに掲載し、全校への情報発信を行った。また、がん教育を振り返り、がん教育を学んだ生徒から他学年の生徒へのメッセージを掲示した。

【掛川市立西中学校】

○ 取組テーマ

がんに関する知識やがんになる原因などの理解を深めるとともに、がん教育の学習を通して疾病の予防や生活習慣の確立につなげる。

○ 取組の実際

対象	実施時期	教科等	時間数	内 容
全学年	11 月	総合的な学習の時間	1	○学校保健委員会 「未来につながる命と健康 ～がんから学ぼう～」 ①生徒保健委員会の発表 生徒がアンケート結果とがんの予防方法についてグラフや文科省の教材を用いて劇形式で発表 ②がん経験者による講話 「乳がんになって人生の新しいページをめくりました」と題して、患者のがん経験者の話を聞く 講師 がん患者会「あんだんて」代表 ③学校薬剤師による助言 1週間前に薬学講座「タバコとお酒のがんとの関係」を実施していたため、繋がりをもった話となった
3年生 2クラス	11 月	教科（保健体育）	1	○「健康な生活と病気の予防」 講師 中東遠総合医療センター 認定看護管理者 石田 佳子 氏 ①文科省のがん教育教材を用いた授業 ②外部講師（看護師）によるTTでの指導
薬学講座で、学校薬剤師よりがんについて触れるなど、年間を通して実施した。				



2. 事業の達成度について

(1) がん教育モデル校における取組について

(モデル校における文部科学省アンケート結果より)

がんの学習について、「健康な生活を送るために、重要であり、役に立つ」こととらえた生徒が10%以上増加した。また、授業の中で、生活習慣病とがんについて知ることを通して生活習慣が健康的な生活に大きく影響していることを理解し、これからの生活についても考える等の意識が向上した。がんに対する理解と、検診を受けること等自分の健康やがんの予防に対する意識の向上が見られた。

【モデル校における文部科学省アンケート結果】

(%)

質 問 (正解)	授業前	授業後	増加
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	78.0	89.6	11.6
がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ（そう思う）	76.4	86.5	10.1
がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	48.0	63.0	15.0
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。（正しい）	95.5	98.4	2.9
早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）	93.9	98.2	4.3
体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い（誤り）	92.1	97.2	5.1

がんの治療法には手術治療しかない（誤り）	84.1	91.8	7.7
自分はがんにならないと思う（思わない）	24.2	29.1	4.9
日頃から、バランスの良い食事や過度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	62.5	75.0	12.5
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	62.6	78.0	15.4
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（思わない）	18.2	27.7	9.5

(2) がん教育研修会について

（受講者に対するアンケート結果から）

「内容が具体的で、自分の中でビジョンが見えてきた。自校でも無理のない範囲で取り組んでいきたい。」等の学校の取組への意欲が高まった。また、教職員と外部講師とのグループ協議を経て、交流ができたことで、講師依頼を考えるようになった受講者がいた。今後のがん教育において、教職員ががんを知ること、がんになった人の気持ちをすることを再認識してもらう機会となった。

授業の教材研究の一貫として参加し、カルチャーショックを受けたと言う教員は、「命・生き方の中の一つとしてがんがある。生き方を考えさせる授業がしたい」という感想もあり、がんを学ぶだけでなく、がんを通して学ぶ様々なことの大切さを感じていた。

医療関係者が学校の先生方と話す機会をもち、意見を交換することで事前の準備の大切さも認識できた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- (1) がん教育の取組を充実させるために、県教委主催の教職員のための研修会を継続して実施し、がん教育について学ぶ機会をもつとともに、学校と教育委員会、医療関係者、がん経験者等の効果的な連携の在り方について協議し、児童生徒等や地域等の実態に応じたがん教育を推進する。また、学校での外部講師の積極的な活用に向けて、現在ある医療機関の外部講師のリストだけでなく、がん経験者等の外部講師リストについても作成することで、さらに充実したがん教育を実施できる体制を整える。
- (2) 各学校においてがん教育を推進していくために、教育課程と関連を図った指導計画や取組の具体例、児童生徒の変容等について、モデル校の実践報告を教職員の研修に取り入れていく。
- (3) 多忙化する学校において、より積極的にがん教育に取り組めるようにするため、各学校のニーズに対応した教職員の校内研修を推進する。（各学校の校内研修にがん教育を取りいれたり、教職員の健康診断後にがんについての内容を取り入れた健康管理の講話を入れる等。）

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- (1) 静岡県のがん診療拠点病院等のがん教育の外部講師として依頼し一覧表を作成している。学校においてがん教育を実施し、外部講師を希望する場合は、県で一括してとりまとめ、学校の地域の医療機関に依頼する体制を作っている。今後より積極的な活用を促すため、モデル校以外での実施例を整理し地域の学校への推進していくことも必要である。
- (2) がん教育の外部講師の活用には、予算も必要である。どの学校も予算が確実のあるわけではないため、国の予算の中からできる範囲で、外部講師の謝金等においても考えていきたい。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で 14 人

(内訳：学校医代表（小児科）1 人、大学病院医師（がん専門医）1 人、大学病院臨床心理士 1 人

がん経験者 1 人、校長 1 人、教職員 1 人、市町教育委員会 1 人、県医療保健部 1 人、県教育委員会事務局 6 人)

・他の組織との連携：県医療保健部、三重大学医学部附属病院の専門医及び同医学部教授等、がん患者支援団体

2. 開催時期、検討内容

6 月 第 1 回協議会…がん教育の推進に向けた事業の検討

1 月 第 2 回協議会…がん教育に関する事業の検証と学校におけるがん教育の進め方について検討

② 教育委員会としての取組

・研修会の開催

県内教職員及び市町教育委員会がん教育担当者及び外部講師（専門医、学校医、がん経験者等）を対象に「がん教育」についての意義や指導内容・方法等についての研修会を実施し、県教育委員会で作成・配付したがん教育に係る教材の周知・普及を図った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県医療保健部において、モデル校におけるがん教育授業の企画・運営・実践を行い、授業実施校の募集では、各市町教育委員会を通して県内の小中学校へ案内を配付し、その取りまとめを行う等、連携を図った。
- ・県医療保健部の協力のもと、本県のがん診療連携拠点病院である、三重大学医学部附属病院の専門医及び同医学部教授、がん患者支援団体等の関係者と連携を図り、がんに関する教育協議会、がん教育に関する講習会を開催する等、取組をすすめた。

(2) モデル校における取組

- ・津市教育委員会と共催で、津市立一志中学校で、東京女子医科大学がんセンター長 林 和彦 氏を招聘し、がん教育公開授業及び講演会を開催した。県内教職員、市町教育委員会がん教育担当者及び外部講師（専門医、学校医、がん経験者が参加した。
- ・県医療保健部による企画・運営で、市町及び県立高等学校で応募のあった学校の中からモデル校を指定し、児童生徒を対象としたがん教育授業を実施した。（桑名市立精義小学校・桑名市立多度東小学校・四日市市立保々中学校・三重県立四日市四郷高等学校・津市立榊原小学校・津市立久居西中学校・津市立久居中学校・津市立香海中学校・津市立美杉中学校・津市立南が丘中学校・津市立西郊中学校・松阪市立柿野小学校・伊勢市立北浜小学校・鳥羽市立加茂小学校・尾鷲市立尾鷲小学校・熊野市立五郷中学校）高等学校 1 校、中学校 8 校、小学校 7 校、計 16 校
- ・モデル校においては、三重県がん診療連携拠点病院、準拠点病院・地域がん診療連携拠点病院、三重県が

ん診療連携病院からの専門医及びがん患者支援団体のがん経験者と連携し、指導用教材を活用して、がんに対する正しい知識の習得と理解の深化を図る授業を実施した。



(3) その他

・小中学校用指導教材のホームページへの掲載

モデル授業で活用した指導用教材について、がんに関する教育協議会で検証・改善を図り、指導の手引とともに、県教育委員会ホームページに掲載している。継続して積極的な活用が図られるように、周知をしていきたい。また、令和2年度では、教育協議会で協議した内容をもとに、指導用教材・手引きについて改訂を行う。

2. 事業の達成度について

・授業前、授業後に児童生徒に「がんの学習アンケート」（小学校1校・中学校1校の抽出校に実施）を行い、集計・グラフ化したもの及び児童生徒の感想を課内資料・協議会資料とし、令和2年度のがん教育の方向性を話し合うことができた。また、アンケートの結果については、実施校・講師等にもフィードバックを行った。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

1 教職員へのがん教育の必要性の意識啓発

・令和2年度では、夏に2回の研修会（医療従事者・がん経験者による講義）を予定していたが、コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、webでの開催に変更して実施する。

2 県教育委員会作成指導用教材の活用にかかる周知

3 外部講師活用の支援体制の構築と外部講師活用のためのリストの作成

4 本人を含め、身近にがん患者がいる、またはがん等で亡くなった家族等がいる児童生徒への配慮の在り方と具体的な手だて等

・がん教育授業事前打ち合わせにて配慮する点について学校側と協議を行う。

5 県教育委員会ホームページに掲載している指導用教材や手引きの改訂

6 令和3年度も文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」を受託予定

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・「がん教育」学校用教材の周知や普及に向けた取組
- ・外部講師を活用するための支援体制の構築と外部講師活用のためのリストの作成を行い、周知を図る。
- ・高等学校における取組の拡大
- ・各市町によるがん教育の取組の拡大

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（13名：医師1名、大学教授1名、県福祉部局1名、県教委3名、校長3名、養護教諭2名、教職員2名）

構成員氏名	所 属 及 び 役 職
橋本 彰則	県医師会 常任理事
中村 晴信	神戸大学大学院 教授
廣瀬 雅樹	県立北摂三田高等学校 校長 モデル校
北上 玲子	猪名川町立猪名川中学校 校長 モデル校
美濃 正明	洲本市立加茂小学校 校長 モデル校
高田 紀子	県養護教諭研究会連盟 会長
山内 浩	県立北摂三田高等学校 モデル校 授業担当教員
川名 達朗	猪名川町立猪名川中学校 モデル校 授業担当教員
奥井 美穂	洲本市立加茂小学校 モデル校 授業担当教員
山下 輝夫	県健康福祉部参事兼健康局疾病対策課長
山根 尚	県教育委員会事務局体育保健課長
岩木 秀諭	県教育委員会事務局体育保健課主任指導主事兼保健安全・食育班主幹
栗山 尚子	県教育委員会事務局体育保健課指導主事

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会（令和元年8月20日 兵庫県民会館）
議事

- (1) がん教育に関する計画（案）について
(2) がん教育に関する事業内容について
ア がんに関する授業の実施について（教材、対象、時間等）
イ 講演会について（講師、内容、対象等）
ウ 研修会について（講師、内容、対象等）
エ アンケートについて

○第2回協議会（令和元年11月25日 兵庫県民会館）
議事

- (1) 中間報告
(2) がんに関する教材や指導参考資料の検討について

○第3回協議会（令和元年12月23日 兵庫県民会館）
議事

- (1) 中間報告
(2) がんに関する教材や指導参考資料の検討について

○第4回協議会（令和2年1月27日 兵庫県民会館）
議事

- (1) アンケート結果からみるモデル校における成果について
(2) 次年度に向けての課題について

② 教育委員会としての取組

○モデル校3校（高等学校、中学校、小学校）に講師を派遣し、講演会を開催した。

【日時、人数、内容等】

※（２）モデル校における取組に記載のため省略

○がん教育に関する教職員及び外部講師対象の研修会の開催

（１）外部講師向け研修会（令和元年11月28日 兵庫県学校厚生会館）

学校におけるがん教育の外部講師の関わり方の充実に資することで、より効果的ながん教育の実施を図るため、外部講師の昨年度の実践発表も含んだ研修会を行った。NPO 法人チャイルド・ケモ・ハウス 田村 亜紀子副理事長及び筑波大学 野津 有司教授を招聘し、外部講師及び教職員、市町組合教育委員会担当者等対象に開催した。

【参加人数：外部講師13名、教育事務所2名、教育委員会12名、教職員13名、計40名】

（２）教職員向け研修会（令和元年12月17日 兵庫県民会館）

教職員の指導力の向上及び学校でのがん教育の一層の充実に資するため、昨年度のモデル校3校による実践発表も含んだ研修会を行った。NPO 法人チャイルド・ケモ・クリニック 楠木 重範院長を講師として招聘し、外部講師及び教職員、市町組合教育委員会担当者等対象に開催した。

【参加人数：教職員108名、外部講師3名、教育事務所4名、教育委員会28名、計143名】

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○県健康福祉部と連携し、がん診療連携拠点病院や県医師会の協力を得て、外部講師となりえる医療関係者等に対して、外部講師向け研修会を実施した。内容としては、昨年度モデル校で講師をされたNPO 法人チャイルド・ケモ・ハウス 田村 亜紀子 副理事長による実践発表と、筑波大学 野津 有司 教授に新学習指導要領を踏まえたがん教育の考え方と進め方についてご講義いただいた。田村副理事長には、参加者より「配慮が必要な児童生徒がいた場合でも講演するのか」等の具体的な質問に答えていただき、有意義な質疑応答の時間がとれた。野津教授からは、アイスブレイクやブレインストーミングといった教育技術の演習を取り入れてご講演いただいたので、外部講師が講演会等の際に役立つスキルを学べた。

○外部講師の連絡体制が取りやすくなるよう、県健康福祉部と連携し、がん診療連携拠点病院における外部講師の窓口担当者リストの作成に向けて取り組んでいる。

○学校医やがん専門医が外部講師として指導する際の参考となるよう、発達段階に応じた小学校・中学校・高等学校向けの文部科学省のモジュールを組み合わせたスライド及び読み原稿を作成している。

（２）モデル校における取組

○令和元年10月25日 洲本市立加茂小学校

がん診療連携拠点病院である県立淡路医療センターから講師を招聘し、オープンスクールの機会を活用した公開授業を行った。がんやがん患者について正しく理解することを目的として、児童との対話を中心とした、映像教材を用いた講演会を行った。講演会后、教室でブレインストーミングの活動を通じて、グループワークを行った。

【講師】県立淡路医療センター 呼吸器外科部長 松岡 英仁 氏
「学校におけるがん教育の推進」

【参加人数】6年生児童及び教職員、保護者等 約39名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間 1時間



○令和元年12月5日 洲本市立加茂小学校

がん専門医の講演会の後、NPO 法人ホームホスピス淡路島から講師を招聘し、がん患者のことをより深く理解でき、健康と命の大切さに主体的に考えることができるよう講演会を行った。その後、教室で前回のブレインストーミングの活動の続きを行い、グループワークでがんについてまとめた。

【講師】NPO 法人ホームホスピス淡路島 理事長 山本 美奈子氏
「“がん”のことをして、命をたいせつにして」

【参加人数】6年生児童及び教職員 約31名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間 1時間



○令和元年10月11日 猪名川町立猪名川中学校

他校の学校医の経験もある講師を招聘し、主としてがんについて正しく理解できることを目的とした講演会を行った。手術や検査の映像教材を用いて、自他の健康と命の大切さに気づき、健康の保持増進に資する能力の育成を図った。

【講師】川西市医師会 副会長 杉町 正光 氏

「よく知ろう！がんのこと～がんは怖くない～」

【参加人数】1年生徒及び教職員等 約256名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間1時間

○令和元年12月17日 県立北摂三田高等学校

三田市民病院より講師を招聘し、文部科学省の指導参考資料も用いながら、がんに対する科学的で専門的な知識を深めることを目的とした講演会を行った。自他の健康と命の大切さに主体的に考えることができ、がん患者と共に生きる社会づくりを目指す態度の育成を図った。

【講師】三田市民病院 副院長 中村 晃 氏

「がんについて」

【参加人数】1年生及び教職員 約220名

【実施科目・授業時数】特別活動1時間

2. 事業の達成度について

- 授業及び講演会後の児童生徒のアンケート結果より、児童生徒にがん教育を強く印象づけることができた。
- がんやがん患者に対する正しい理解と認識を学ぶことができるようになったことにより、健康を主体的に考えるようになった。
- 昨年度と比較して、下記11項目のうち10項目が増加したことから、平成27年度よりがん教育総合支援事業を推進してきたことが成果につながった（(2)2）が19.1⇒13.8）。 ※（ ）内：H30年度

	がんの学習について	実施前	実施後	増加
(1)	1) a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	75.8% (72.8)	92.9% (87.1)	+17.1 (+14.3)
	1) b がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	74.2% (71.1)	91.3% (84.9)	+17.1 (+13.8)
	がんやがん患者に対する正しい理解と認識を学ぶことができた。			
(2)	2) c がんは日本人の死因の第2位である。 「誤り」と答えた児童生徒の割合	50.0% (40.8)	63.8% (59.9)	+13.8 (+19.1)
	2) e 早期発見すれば、がんは治りやすい。 「正しい」と答えた児童生徒の割合	92.1% (92.2)	98.8% (95.2)	+6.7 (+3.0)
	3) e がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。 「そう思わない」と答えた児童生徒の割合	22.0% (21.6)	40.4% (29.5)	+18.4 (+7.9)
	3) f がんになっても生活の質を高めることができる。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	22.8% (20.1)	47.1% (31.7)	+24.3 (+11.6)
	3) g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	72.2% (58.7)	83.6% (69.4)	+11.4 (+10.7)
	健康の大切さについて主体的に考えるようになった。			
(3)	3) a 自分はがんにならないと思う。 「そう思わない」と答えた児童生徒の割合	35.8% (36.4)	44.4% (42.8)	+8.6 (+6.4)
	3) c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	57.9% (49.9)	78.4% (69.2)	+20.5 (+19.3)
	3) d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	60.0% (49.8)	77.6% (63.9)	+17.6 (+14.1)
	3) h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	44.9% (39.8)	66.3% (53.3)	+21.4 (+13.5)

- 教職員や外部講師対象の研修会において、アンケート結果より、概ね良かったという意見が多かった。今年度は2回にわけ、外部講師向け研修会は質問も多く出て、大変好評だった。
- がん教育に関する協議会において、学校・医師・学識経験者・行政関係者等、それぞれの立場から、がん教育の進め方について積極的な意見交換ができ、モデル校での授業及び講演会の内容も踏まえた外部講師向け教材の検討が行えた。さらに、モデル校においてがん教育の普及啓発につながる取組みが多くできたことで、これまでの県の取組をまとめることができ、今後のがん教育の指導内容や方法について具体的な検討ができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- がん教育に関する時間の確保、外部講師との時間調整の難しさ。
- がん教育の普及・啓発（研修会やモデル校の授業・講演会の公開）。
⇒次年度、研修会等を通じて、がん教育の先進的な事例を周知していくとともに、がん教育そのものに対する理解を高められるよう研修内容を検討する。
- 発達段階に応じた系統的に学べる内容や教材の提示。
- 外部講師向け教材の完成や周知。
⇒今年度の協議会の中で、発達段階に応じて系統的に学べる外部講師向け教材を作成したものを、次年度、ホームページや研修会等で周知する。
- 配慮すべき児童生徒が講演会等で辛くなった場合の具体的な対応。
⇒次年度のモデル校で配慮すべき生徒がいるため、がん教育を進めるにあたって、生徒の意見も聴きながら、具体的な対応事例として他校の参考となるよう取り組んでいく。
- 講師謝金等の経費の確保。
⇒モデル校を増やす以外にも、経費確保の方法についても検討していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 外部講師の体制整備のため、外部講師向け教材の普及啓発を行っていくとともに、県疾病対策課と連携しながら、外部講師の窓口リストを早急に整備する必要がある。併せて、講師謝金等の経費の確保についても検討する必要がある。